

げんこつ団

『ダイヤのモンズ』

2020年11月4日(水)～11月8日(日)

駅前劇場

脚本・演出・映像・音響／一十口裏 演出・振付／植木早苗

出演

植木早苗

春原久子

河野美菜

池田玲子

三明真実

丹野 薫

秋月三佳

藤岡悠美子

シゲキマナミ

照明／山岡茉友子 舞台装置／島山英樹 音響オペ／吉田有花 映像オペ／信広天音

協力／株式会社テンカトル TO・QUATRE (有)プログレスアイエヌジィ 涙目キューピー

株式会社ステッカー 島山工務店

制作／げんこつ団事務所

上手の手前にドア。上手の奥と下手の奥に出捌け口。上手後方に映写パネル。下手後方には観音開きの開閉式の窓。舞台上には六つの椅子と三つのテーブルが置いてある。

SCENE 「コールセンター」

無駄に威勢の良い音楽が鳴り、しばらくしてから、客電が消える。しばらくしてから、音楽カットアウト同時に、舞台下手のみ明転。テーブル二つと椅子二つが並び、テーブル上にはそれぞれPCが置かれている。その前で、ヘッドセットをして宅間がボーンと座っている。着信音が鳴る。庭先が下手から入って来る。宅間が電話を受ける。

宅間 お電話有難うございます。東京都粗大ごみ受付センター、宅間です。ご家庭からの粗大ごみの

和子(声) (遮って) 23センチ。

宅間 はい。ご家庭用からの粗大ごみの

和子(声) (遮って) 23センチ。

宅間 はい。お申し込みでよろし

和子(声) (遮って) 23センチ44センチ148.7センチと、17.2センチ。

宅間 (数字を打ち込みつつ) はい。こちらのサイズの品物をお申し込みで

和子(声) あっ違う！ 22.8センチと43.9センチと147.7センチと、17.16ね。縦と横と高さよ、…あら？

宅間 (数字を打ち直し始める)

和子(声) 何？どこ？もう一つこれ、どの長さ？ 縦横高さよ、え？どこ？どこ方向？ 四次元？異次元？

(数字を直しながら) はい。こちらお申し込みで

和子(声) うん、小さいから。凄く小さいの。思ったより凄く小さいんだけど。いいんでしょう？

宅間 (メモを用意しながら) あ、何がでしょうか。

和子(声) でも端っこがちょっとだけ、クルツとしてて、臭いの。

宅間 (メモを取りながら) はい…。

和子(声) だけどね。大丈夫。サーツとしてる。凄く、サーツしてますから。

宅間 (メモを取るのをやめて) はい。それはどういった品物でしょうか。

和子(声) で？いつ？ いつなの？

宅間 あ。あの。回収の日取りは、お品物を伺ってから

和子(声) ああ、大丈夫よ。もう外に出してあるから。で。いつ？

宅間 はい。それはどういった品物でしょうか。

和子(声) はい。ちよっとだけ臭いです。

宅間 はい。

和子(声) それほど重さはないんだけど、あ、美和ちゃん、おかえり。なに？え？いま電話してんの。

宅間 え？ブルーレット？ 置けばいいじゃない、置くだけでしょ？え？

和子(声) あの。

宅間 なんで置かないの？え？じゃあ「置かないだけ」の方を買って来なさいよ、え？なに？置けな

和子(声) い？え？気が？気が？え？

宅間 あの！

和子(声) あ、ごめんなさいね。何だったかしら。ユネスコの話だったかしら。

宅間 いえ。(メモを返かして) では。先にご住所を伺ってもよろしいでしょうか。

和子(声) えっ？！

宅間 ご住所をお願いします(キーボードに手を乗せる)

和子(声) (無言)

宅間 あ、回収に伺いますので、ご住所とお名前を、

和子(声) (無言)

宅間 お客様？

和子(声) お客様？

和子(声) (無言)
宅間 お客様？

和子(声) 物凄く早口で何を言っているか分からない)

宅間 (打ち込もうとしたが打ち込めない) あ。申し訳ありません。もう一度お願いします。

和子(声) (更に早口)

宅間 (打ち込めず) あ。もうちょっとゆっくり、

和子(声) (打ち込もうとしていたが出来ず) あー…

宅間 (打ち込もうとしていたが出来ず) あー…

和子(声) で。いつ来るの。だって今日はもう雨が降るでしょ？夕方頃は大丈夫かとは思っただけど雨ざ

らしになっちゃうといけないから。ね、どうしましょう。何でもくるみます？ブランケット？タ

オルケット？ウルケット？パイルケット？キルトケット？

宅間 あ、あの。回収は、後日となりますので。

和子(声) あっ、やだ。なんだ、そうなの？ごめんなさい。はい。分かりました。

宅間 はい。(一旦、安心して)なので申し訳ありませんが、今一度、

和子(声) (メモを取り終わる音)じゃ。五時に。待ってますから。お願いねー(声、遠くなる)

宅間 あっあの、後日です、五時じゃなくて、後日！

和子(声) え？ 五時十分？(声は遠くなったまま)

宅間 いえ、後日。

和子(声) え？ コツチ？ ウチデの？(声は遠くなったまま)

宅間 いえ、回収は、後日になりますので。

和子(声) ああ、後日ね。ウチデの。分かりました。(声は遠くなったまま)

宅間 はい。ですので今一度、お出しになるお品物とご住所を

和子(声) だから、又ウオオヤマア、ガウツシヨウヌムア、和子です。

ボコボコと水中音がし始める。

和子(声) 住所はほら。徳居さんちの斜め向かいで。ボコボコ。十六松耳鼻咽喉科病院の、十字路を右に

宅間 曲がった所の、ボコボコ。

和子(声) ジュウロクマツ…(と、検索しながら)で、お品物は、

宅間 ええ、ちょっとだけ臭いボコボコボコボコ。

和子(声) あ、お客様？聞こえますか？お品物は、何ですか？

宅間 ボコボコ、だから、ボコボコ、オオヤマゲツシヨウヌム、ボコボコ、和子です。

和子(声) あ、いえ。お出しになる粗大ごみは、

宅間 ボコボコ、だから、ボコボコ、オオヤマゲツシヨウヌム、ボコボコ、和子なの！

和子(声) え。あの。…粗大ごみが、ですか？

大きな波の音のち、のどかな鳥の音がする。

和子(声) はい、私です。もう要らないんで。もうね、使えませんか。

よく分からない動物の音が轟く。

宅間 あ、あの、お客様。…どこにいますか？

和子(声) もう駄目なのよ、使えないの。全然。だから捨てちゃうから。

祭囃子が近づいてくる。

宅間 ……ねぶた祭りですか？

祭囃子、近づいてくる。

和子(声) だから何でもいいから早く持ってって。

宅間 でも、

和子(声) 大丈夫よ。思ったよりずっと、サーッとしてるから。それに、
宅間 でもあの、あ…

祭囃子、更に近づいて来てとてもうるさい。

宅間 あの、お客様ー、お客様ー、聞こえますか？

いきなりの爆撃音。戦場の音が始まる。

宅間 あっ、お客様？お客様？

和子(声) (息を切らして) だから早く持ってって、お願い(悲鳴)
宅間 大丈夫ですか！

和子(声) (後ろに向かって) ムーブ！ムーブ！(機関銃の音) ああっ！ね、早く、もう駄目だから、
宅間 急いで、

宅間 でもあの、
和子(声) ああっ！(衝撃を受ける声) がッ(機関銃の音) 小林ー！

戦場音に空爆の音加わる。

宅間 あのっ！

和子(声) (全速力で走っているらしく息を切らして) だから、場所は、徳井さんちの、ほら、天然パー
宅間 マの、徳井さんちの、

あのっ！

ひときわ大きな爆音。

宅間 あっ！ お客様！お客様！お客様ー！

爆音が治まると、静寂。そして静かな宇宙音？が聞こえてくる。

和子(声) で。取りに来て、来て、来て、来て、くれるんですよ、でしょ、でしょ？(声にエコーがか
宅間 …あ、はい……)

和子(声) 良かった、良かった、良かった……

宅間 …あ、はい……
宅間 …あ、はい……

和子(声) …あ、はい……
宅間 …あ、はい……

和子(声) …あ、はい……
宅間 …あ、はい……

ブツツと電話が切れツーツー音が響く。庭先は宅間の隣の席で、宅間の一部始終を見ていた。

宅間 (息を吐いて電話を切り、受付画面を閉じる)

庭先 どうしたの。
宅間 (しばらく庭先を見てから) …さあ。
庭先 (少し驚き) さあって何よ。
宅間 …。
庭先 ああ。そんなんじゃこの先、メンヘラロク男に散々貢がされた挙句、失踪して、野垂れ死ぬね。
宅間 ……は？

着信音が鳴る。室内全体明るくなり、上手奥から屋代、直径50cm高さ150cmほどの青くて重い物体を抱えてやって来る。

庭先 まず自立。その先にキャリア。常にプロ意識。鳴ってます。

庭先 いつまでも甘えてらんないよ。頼れるのは自分だけ。そっち鳴ってます。

庭先 だからもういいかげん、実家出な。親からしたらほんと迷惑。

庭先 …。
庭先 自分で自分の幸せ、掴みなよ。(宅間のどこかを指差して) せっかくいもん、持ってんだからさ。

宅間 は？(指された所を見る)

屋代 (青い物体に足をぶつけ) あっ！(舞台後ろの方で物体を下ろし、痛がる) つー。

庭先 (電話に出る。甲高い、独特の電話応対イントネーションで、応対) はい、東京都ー粗大ごみー受付センター庭先ー、です。ご家庭の粗大ごみーの、お申し込みでしょうかー？

宅間 (屋代に) なんですか、それ。

屋代 あ？ブルーレット。

宅間 (大きいなと思う) …置くんですか。

屋代 置くよ。だって。(宅間の目の前に置いて満足する)

宅間 えっ、ここにですか？なんで…

屋代 別に。だって、置くだけだから。

宅間 …。
庭先 復唱します。練馬&%(ひときわイントネーション強くなり、何を言っているか分からない)

屋代 あ。今日終わったら飯でも食いに行かない？

宅間 え？
庭先 それでは回収日を、%&\$\$%&\$\$%&\$\$

屋代 明日からこの人員、総入れ替えになるからさ。

宅間 何ですかそれ。

庭先 &%月&\$日。

屋代 だから。明日から人員総入れ替えで、もう二度と会えないからさ。

宅間 え？

庭先 %#&%曜日。

屋代 だから一回くらい。いいじゃん、セックス。

宅間 え、ちよつと待って下さい。今なんて。

屋代 だからセックス。

庭先 ですから%&曜日。

屋代 もう五年も、おんなじ職場だったわけだし。

宅間 え？総入れ替え？え？全員？ じゃ、私達どうなるんですか？異動ですか？クビですか？

屋代 うんそう。だからさ、

庭先 &#x26;#!

宅間と屋代、庭先を見る。

庭先 %、%&曜日の朝&時に&#%を%#にして、必ず&&のうえ、#.#%&\$&\$に&&&として、#
#まで、お出し下さいませー。お電話、&#.&&&ましたー。(受付画面を閉じて、低く息を
つく)

宅間 あ。庭先さん、知ってました？私たち、

庭先 ああ、あれでしょ？なんだっけ。クビでしょ？

宅間 え。

庭先 都の、グローバルズミックススタイル計画で。あ。グローバルングスタイルリッシュ計画で。あれ？

屋代 グローバスマジッククリン計画の。ゆずの香りだっけ？森の香りだっけ。あ。バスロマン？

庭先 ああ、なんかそんなので。都のグローバル化を推進する一環として、ここも多言語対応になるん
だっけさ。(ポケットから一枚、配られたプリントを出す)

宅間 多言語対応？

庭先 うん。10ヶ国語対応。

宅間 そんなに？

屋代 うん。(プリントを読む) 英語中国語ヒンズー語、スペイン語フランス語アラビア語、ロシア語

宅間 ポルトガル語ベンガル語、ドイツ語、あれ？(紙を裏返してみる)

屋代 (裏を覗き込んでみる)

宅間 (もう一度プリントを読む) 英語中国語ヒンズー語、スペイン語フランス語アラビア語、ロシア

屋代 語ポルトガル語ベンガル語、ドイツ語、あれ？(紙を裏返してみる)

宅間 (裏を覗き込んでみる)

庭先 まずは、世界の主要言語、上位10カ国語からだからね。

宅間 日本語は何位なんですか。

庭先 さあ。確か世界ランク、だいぶ下げてるよね。

屋代 多分。

庭先 どんどん、下がりつつあるよね。

屋代 多分。

宅間 …。

庭先 だからしょうがないよね。

屋代 ああ。都の日本人はもう出せねえな。粗大ごみ。

庭先 困っちゃうねー。

宅間 どうしよう、明日から…

屋代 まあしょうがないって。これはもう、都の決定だから。俺達のセックスは。

庭先 (無視して) 庭先さんは、どうするんですか？

宅間 え？セックス？

庭先 いえ。この先。

屋代 ああ、私は父がポルトガル人だから。

庭先 えっ

屋代 母はベンガル人だし。

庭先 えっ

屋代 だから私は大丈夫。

庭先

着信音。庭先が出る。

庭先

宅間

(再び甲高く独特のイントネーションで) はい、東京都粗大ごみ受付センターです。

嘘ですよ。

屋代 えっ（辺りを見回す）
宅間 ご両親。見たことありませんけど。
屋代 ああ、びっくりした。
宅間 あと、しませんから。
屋代 えっ
宅間 セックス。
屋代 えっ
庭先 お客様ー？
宅間 もう。どうするんですか。どうすればいいんですか、これから。
庭先 お客様？お客様ー？

宅間と屋代、庭先を見る。

庭先 どちらからお掛けですかー？（耳を澄ます）…あ。祇園祭ですか？ ちよっと、お客様ー？
宅間 あ…
庭先 どこに居るんですかー？お客様ー？あっ（大音量がしたらしく、ヘッドセットを少しずらして）
大丈夫ですかー？お客様ー？ いったいどこに、
宅間 さっきの…？
和子（声） ちよっと、どうして来ないのよ！
宅間 （驚き、上や辺りを見回す）あ…
和子（声） 来るって言ったじゃない！待ってるのよ！
宅間 どこに？
和子（声） だって！

屋代の置いた青い物体をぶち破って、中から和子が出て来る。

和子 約束したじゃない！タクマさん！（迷うことなく、宅間を指差す）
宅間 えっ
和子 五時に来るって言ったじゃない！
宅間 五時じゃなくて後日です、
和子 ウチデのね！
宅間 え？どこから？そこから？
和子 知らないわよ！どこだっていいのよ、場所なんか！

終業のアラームが鳴る。庭先、屋代、腕時計を見る。

庭先 （和子に）大変申し訳ありません、本日の営業は終了しましたので。またのお電話、お待ちしております
宅間 おります。（ヘッドセットを外して立ち上がり、とても素早く帰り仕度を始める）
屋代 え、
宅間 じゃ、俺も。（と、上手に向かう）
屋代 ちよっと待って屋代さん、これ（青い物体）、どこから、
宅間 あ、そうだ。（上手からグニャットとした30cmくらいの青い物体を持って来て、宅間に渡す）こ
屋代 れ、「置かないだけ」の方。
宅間 は？
屋代 置かないどいて、くれればいいから。
宅間 は？
屋代 置かないどけば、いいだけだから。
宅間 は？

庭先 じゃ、元気でね。さようなら。
屋代 さようなら。

庭先、屋代、上手に去っていく。

宅間 ちよっと待って、屋代さん、庭先さん、（と、青い物体を手放して追おうとする）
和子 あっ駄目、置いちや。（と、宅間に少し近づくと）
宅間 あっ和子さん、ちよっと臭い。（と、和子から逃げる）
和子 でも、サーツとしてるでしょ？
宅間 退いてください。
和子 置かないで。
宅間 だって…（青い物体を早く手放したい）
和子 置かなければ、いいのよ。
宅間 だって…（青い物体を早く手放したい）
和子 置かないで！

OPENINGの、音楽イン。

宅間 だってなんかちよっと、（物体を見て）動いてる…？
和子 そう？
宅間 だってなんかちよっと、（物体に耳を寄せ）生きてる…？
和子 そう？
宅間 なんなのこれ…。
和子 さあ。

音楽のタイミングで、照明カットアウト。

FILM「OPENING 1」

キャスター ニュースです。世界的に猛威を奮った新型コロナウイルスが完全に収束して、季節が一巡りしました今、世界中のマスクが羽化し、人々の顔から、飛び立っていきました。

空を飛び回るマスクの群れ。

キャスター 次のニュースです。この度ようやく開催される、主要国首脳会議ですが（華々しい映像）この記念すべき日本での開催においては、厳重なテロ対策と警戒が必要不可欠であるとして、政府は広く、ボランティアを募りました。

お揃いのジャンパーかサンバイザーを身につけた、シルバーボライティア団体、
楽しそうにテロ警戒にあたる。

キャスター 尚、東京都は、今年度から推進を始めた、「グローバスサロン・ド・ビューティー・心華やぐベルガモットローズの香り」計画により、こここのところの疲れをすっかり癒し、芯までじっくり、温まりました。これにより東京都の、コリ・ハリ・痛みは完全にほぐれ、（ローズ色に染まる都庁等の映像）……ん？（口元に異変を感じる）

キャスターの口をこじ開け、鳴き声を上げて産まれ出て来るマスク、
キャスターの口元に張り付き、その口を塞ぐ。

湯気を立ててゆらゆら揺れる、オフィス街や住宅街。

SCENE 「ラストラン」

映像オフ同時に明転。白いスーツに黄色いストッキング、首に大きめの黄色いスカーフを三角に巻いた女性(家鴨)、白いワンピースに赤いストッキング、首に小さめの赤いスカーフを巻き、頭に赤いメッシュを入れた女性(雌鶏)、上手ドアから、入ってくる。ウエイトレスの草壁と戸口、下手から急いでやって来て、テーブル一つと椅子を二つ、舞台中央に運ぶ。

でも良かったです、たまたまこっちにいらしてて。ああ、どうしましょう。

昭恵さん、落ち着いてください。今に皆さん、いらっしゃいますから。

でも百合子さん。どうするんですか。東京全区が、ふやけてしまったんですよ。

そうですね。

湯あたりです。ふにやふにやなんです。

はい。

テーブルと椅子が用意され、雌鶏と家鴨、席につく。

どうにかしないんですか。

どう、どうにかするんですか。

ですから、どう、どうこうするかを。

ですから、どう、どうこうすればいいんですか。

だからどっか、どうこうして、どっか、どっどるするかを、どっか、どっどるどっ、こっ、こっこっ、こっこっ、(立ち上がる)
失礼します。

戸口

戸口、上手奥からステンレスのザルかボールを持って来て、雌鶏の尻の下にザルを向けると、カラン、コロン、と音がして、玉子が二つ、産まれる。戸口は、その玉子を下手奥に持っている。

まあいずれ、湯冷めますから。

それでは風邪をひきます。何とかして下さい。

失礼します。(と、餌の入ったバケツを雌鶏の前に起き、家鴨にバケツを差し出す)こちら、蒸したトウモロコシと、油性混合物でございます。

草壁、家鴨の首を掴み、バケツ山盛りの飼料を、漏斗で無理やり家鴨の喉に詰め込んでいく。

家鴨

(飼料を詰め込まれながら)ひとまず状況把握があ、必要なので。全区の情報収拾があ、

ドアからスーツの男性(牛)、小さなマスクをしてやって来て、片手をあげる。

雌鶏

あらあなた。どうしたんですか、それ。(マスク)
あ。いつの間にか。孵化したみたいです。

家鴨

(詰め込まれながら)あ、後ほど都の状況についてお話が
はいもお、もちろんでございます。(マスクを外すと、鼻に金属の輪っか)

戸口

失礼します。

牛

もお、これが終わりましたらもお、ただちに。

戸口、牛の鼻の輪っかに紐を結び、上手奥に引っ張って行く。

牛 あ、有難うございます。(上手奥に引っ張られていく)

家鴨 搾乳ですか。

雌鶏 はい。

家鴨 大変ですね。

雌鶏 はい。(立ち上がり) サミット前夜で、各国首脳は勿論、各国政界の要人も沢山、お招きしてますから。いくら搾乳しても足りません。(下手のカーテンを開ける)

窓の向こうが、煌びやかに明るく、素敵な音楽が流れてくる。

家鴨 (草壁に) 首相はまだ。

草壁 あ。先ほど、法務大臣、農林水産大臣と共に。

家鴨 そうですか。もうお集まりで。

雌鶏 それはそうですよ。(窓を見て) 各主要国からこれだけの方々が、集まっているんですから。

戸口、トレーに大きくカットされた生肉を3切れ、持って上手奥から下手奥へ。

家鴨 (生肉に) あ、首相。お疲れ様です。

戸口 (一番上の生肉をトングで持ち上げ、下の二切れを家鴨に見せる)

家鴨 あ、大臣に、大臣も。お疲れ様です。(肉に向かって) 後で都の状況についてお話を。

戸口 (持ち上げた生肉が震える)

家鴨 はい。お願いします。

戸口 失礼します。(下手奥へ向かう)

雌鶏 ああ。皆さんとっても、美味しそうになられて。

家鴨 ええ。本当に。

草壁 失礼します。(再び家鴨の首を掴み、椅子に投げ飛ばすと、家鴨の口に飼料を詰め込み始める)

家鴨 私もいつか(飼料を詰め込まれながら)皆様のようになら、お役に立てたらと(喋れなくなる)

雌鶏 立てますよ。頑張ってください。(戸口に) あ、財務大臣は。

戸口 あ、マトンは。いえ。財務大臣は、放牧の時間にどこかへ。

雌鶏 まあ、また。困りますね。

シエフ (下手から走り出て窓に向かって手榴弾を投げると同時に、下手に退避)

雌鶏 それではお出しするお料理が、足りないのじゃないかしら)

唐突な爆音で、一瞬、窓が真っ赤になり、舞台上の照明も揺れる。舞台上の人々も衝撃を受ける。そして窓を見る。

雌鶏 え……

シエフ (下手奥からやって来て、窓の向こうを眺めると、笑顔で雌鶏と家鴨に) あ。フランベでございます。

素敵な音楽、再び。

家鴨 まあ……

シエフ 召し上がりますか?

雌鶏 とんでもない!(立ち上がり) 百合子さん、私たちも行きましょう。(全速力で下手奥へ)

家鴨 ええ、昭恵さん。(立ち上がり) 勿論です。

雌鶏 私もフランベされなくては…!

家鴨と雌鶏、全速力で下手奥へ。と思ったら、家鴨は途中で踵を返し、優雅に歩いて上手ドアに去る。

シエフ (二人を見送ってから草壁と戸口に) あとで少し、我々にも切り分けましょうか。

草壁 (立ち上がって) あ、はい。

戸口 (立ち上がって) 有難うございます。

シエフと草壁と戸口は上手奥へ向かい、映像イン。

FILM 「OPENING 2」

湯気の立つ街に並んだ選挙ポスター。老若男女の候補者。

そのキャッチコピーが美味しそう。「のごごしまるやか」「とろける食感」

「糖質ゼロ!カロリーオフ!」「芳醇なコクと香り」「こってり濃厚」などなど

「世界保健機関」のロゴと文字。WHO会見。

マイクの向けられた壇上には、こんがり焼けた北京ダック。他、各国料理。

以下、音声は英語。字幕は日本語。(北京ダックには、眼鏡と髭。他の料理にはネクタイ等)

北京ダック

世界的な食料難が議題になると思われた主要国首脳会議は、各国首脳がそれぞれに豪華な各国料理となり、非常に華やいたが、しかし世界中から「野菜も食べたい」と言う声が大きく上がった。野菜を食べよう。野菜を食べねばならない。世界は今、付け合わせを求めている。

(付け合わせの画像)

またこのところ、新たなウイルスの感染蔓延の兆候が見られている。この感染は、親孝行により広まる。

(「孝行接触」の文字と、親孝行の画像)

しかしそれを食い止めればいいというものではない。このウイルスの恐ろしい所は、その感染力にある。まず、全然関係のない者が、感染する。

(全然関係ない人の画像)

そして、全然関係のない者が感染すると、やがて、全く関係のない者が、発症するのだ。

(まるで関係ない人の画像)

その発症は始め、発熱として現れ(図解)、そして2日から6日程の潜伏期間を経て(図解)、やがて、高御堂さんになるのだ。

(「高御堂逸美さん」の文字と、高御堂逸美さんの素敵なスナップ写真の数々)

これに対し、我々は…

高御堂さんのスナップ写真で、素敵な音楽が大きくなり、タイトル。

SCENE 「オフィス」

音楽終わりで明転すると、それぞれ机に頬杖ついて、スマホをいじったり雑誌を読んだりしている社員たち。小柱(男)、梁田(女)、床山(男)。堀島(男)は舞台真ん中の後ろの方で、一人、やはり雑誌を読んでいる。宅間父は、女一に怒鳴っている。

宅間父 だからあんたもほんとにそれでいいと思ってんの。

女一 はい、都の産業労働局と致しましては、

宅間父 いや、そんなのいいから、あなたの意見を聞いてんだよ。
女一 はい、私自身と致しましても、
宅間父 違うんだよ。そういうのはもういいんだよ。どうするんだよ。
女一 はい。

上手奥から、スーツ姿の、男一、ファイルを持ってやって来る。

宅間父 いや。俺だけの話じゃなくてさ、みんなが大変なんだよ。どうすんだよ。
女一 (男一を見つつ) はい、善処致します。

宅間父 どうすりゃいいんだよ。俺だっつてこんなん、言いたくないんだよ。

男一 (大きな独り言) いやあ、まいったねー。

女一 はい。この度も、都の労働雇用状況に関する貴重なご意見、誠に有難うございました。
宅間父 だからさ！

女一 (宅間父を殴り倒す)

宅間父 (倒れる)

男一 (笑いながら) なに。また？

床山 (笑いながら) そうみたいですよ。

梁田 (笑いながら) しつこいですよね。

女一 っていうか。まいったのはこっちですからねー。

男一 え？ああ、いやまあ、ほんとに熱がね、ちょっとあつたんだよ。

小柱 ほんとうですかー？

男一 ほんとだよ。

女一 まあ、しょうがないですけど。病院、行っただんですか？

男一 うん。行っただけど。なんかハッ血球が、ちょっとだけ少ないって。

女一 ハッ血球が？

男一 うん。あと、ヒッ血球とヘッ血球と、ホッ血球も、ちょっと少ないってさ。

女一 …大丈夫なんですか？

男一 まあ大丈夫だよ。

女一 そうですか。

小柱 あ、これ見て。(梁田に雑誌のどこかのページを見せる)

男一 ごめんね。忙しかったでしょー。

女一 そりゃそうですよー。

小柱 すっごいでしょ。

女一 っていうか(ファイルで梁田の頭を思い切り引っ叩く)

梁田 (起動する) じゃーん…！

女一 もう大丈夫なんですか？(ファイルを梁田に投げる)

男一 え？

女一 休むならちゃんと休んで、具合、治してくださいよ。

小柱 ほんとほんと。

男一 お。優しいじゃん。(小柱と机を挟んで向かい合う形で座る)

女一 昨日の残りの計算も(男一のファイルを奪って)やっときますから(梁田に投げつける)

男一 いや悪いよ、それは。やるよ。(小柱を机を下から思い切り蹴り上げる)

小柱 (起動する) じゃーん…！

女一 また急に休まれると困るんですよ。とりあえず今日はゆっくりしといて下さい。

梁田 (ポケットから電卓を出し、ファイルに向かってペンを走らせ、計算を始める)

男一 悪いって。

女一 いいんです。

男一 そうか。(小柱の頭を乱暴に机に押さえつける) 有難う。正直、助かる。

女1 やっぱりまだ具合悪いんじゃないですか。
男1 あ。やっぱり机を蹴り上げる。
小柱 (起動する) じゃーん…!
男1 じゃこれ。コピーしとくよ。(ファイルから一枚書類を取り、小柱に差し出す) 何部だった?
女1 有難うございます。28部です。
小柱 28部…(うなずいて、書類を急いで書き写し始める)

男2、上手奥からファイルを持ってやって来る。

男2 お。もういいの?
男1 ああまあ、なんとかか。
男2 ちゃんと休めよ。具合悪いときは。(床山の頬を思い切り平手打ちする)
床山 (起動する) じゃ、じゃーん…!
男2 俺が資料、作っとくからさ。(ファイルと一緒に持っていたクーピーペンシル24色入りを差し出す)
床山 はい!(直ちに熱心に資料を作り始める)

梁田が計算、小柱が書類の書き写し、床山が資料作りをするのを、ただポーツと眺める、女1、男1、男2。

男1 (辺りを見回し) あ。そういや今日、主任は?

女1 あー。なんか来てないですねー。

男1 あー。聞きたい事あったんだよなー。

女1 もー。急ぎですか?

男1 ああ、まあ。

女1 (宅間父を思い切り蹴り起こす)

宅間父 (驚き飛び起きる)

女1 (宅間父の頭か腹を押す)

宅間父 え、

女1 (宅間父の頭か腹を押す)

宅間父 あ、はい、

女1 (宅間父の頭か腹を何度も押す)

宅間父 ぺ、プ、ポ、はい、パ、ピ、ポ。

女1 あ、営業にメール送りました?

男2 あ、やべえ。送ってない。

宅間父 プルルルル、プルルルル(電話の呼び出し音)

女1 もー。急いで下さいよ。

男2 今やる今やる(床山からクーピーペンシルを取り上げる)

宅間父 (女1に) 何?

女1 あ、すみません主任。

宅間父 今更?(笑って) 今更電話なんて、もう遅いんだから。あたし、今、なにしていると思う? 手

首、切ってやるうとしてんの。

女1 あれ?

宅間父 だってもう遅いんだから。あんたなんか、一生後悔すればいいんだから!

床山 (クーピーペンシルを男2から取り返す)

男1 どこに掛けてんだよー(宅間父に近づく)

宅間父 (逃げるか懇願) あ、ごめん。ダメ、切らないで。やめて。お願い。だって、だってあたし、

床山 (男2が取り上げようとしても、クーピーペンシルを決して離さない)

男2 ダメだ。ああもう。リリースしたよ。
女1 また？
男2 ダメなんだよな、すぐリリースする。
女1 もー、また強制終了させなきゃじゃん。(全速力で床山に掴みかかり、肘でその首を絞め上げる)
床山 (気を失う)
男2 あー、あんましそれやるとダメになるんだよなー。
宅間父 まだ愛してるのー！

堀島、突然、エーデルワイスのメロディを美声で歌い始める。全員、堀島を見る。

男1 あ。もう休憩？
男2 ああ、ちょうどいいじゃん。ちょっと休もう。休ませよう。(宅間父に) ちょっと保留にしますね。(と、宅間父の頭か腹を押す)
宅間父 お。有難う。
女1 (梁田に) お疲れさまですー。
梁田 (伸びをしてから) お疲れさまですー。
男2 (堀島に) お疲れさまです。
堀島 (肩を回して) お疲れさん！
小柱 あ、梁田さん、缶コーヒー、買って来る？
梁田 え、小柱さん、買って来てくれるんですか？
小柱 おう。
梁田 じゃ、ミルクティーで。
堀島 あ、私にも。ジャスマンティー。よろしく。
小柱 あ、はい。あ。床山もいる？
梁田 あれ？床山さん。
男1 床山さん。
堀島 床山！
男2 (目を覚まし) え、あ、何？
男2 (下手に行きながら) 買って来ます？缶コーヒー。
男2 あ。じゃ、コーラお願い。もー疲れた。
男2 お互い大変ですよねー。

下手から女2、沢山の缶コーヒー等の飲み物の入ったカゴを持って、軽快なメロディを口ずさみながら笑顔でやって来て、小柱の前に立つ。

女2 お疲れ様です！ あたにかいお飲物とつめたいお飲物をご用意しております！ お好きなお飲物を選んで投入口にコインを入れるか、電子マネーをタッチして下さい！ さあどうぞー！
小柱 えっと。ミルクティーと
女2 (「ミルクティー」に完全に被って) はい。
小柱 あ、ミルクティー。
女2 (完全に被って) はい。
小柱 ミルクティー。
女2 (完全に被って) はい。はい。
小柱 あと。ジャス
女2 (完全に被って) はい。
小柱 ジャスマン
女2 (完全に被って) はい。

小柱 ジヤスミンティー
女2 (完全に被って) はい。はい。はい。
小柱 あと何だっけ。あ。コーラと、
女2 (「コーラ」に完全に被って) はい。
小柱 微糖のコーヒー。
女2 (完全に被って) はい。はい。烏龍茶とコーンポタージュとメロンソーダでよろしいでしょう
か。
小柱 あ、違います。ミルクティーとジヤスミンティーとコーラと微糖のコーヒー
女2 (完全に被って) はい。はい。はい。はい。はい。はい。はい。はい。はい。

塀島、立ち上がって、女2に近寄ってくる。

塀島 あー。もうねー。あのね。ちゃんと聞いて。
女2 (完全に被って) はい！ はい！ もちろんです！
塀島 そんなんじゃさ、困るからさ、
女2 (完全に被って) はい！ はい！ そうですかー！
塀島 皆んな疲れて喉乾いてんの。
女2 (完全に被って) はい。はい。わかりました。
では、お飲み物はこちらからお選び頂いて、
塀島 (完全に被って) うん。うん。うん。うん。
だからね、ちゃんと人の話を聞いて、
女2 (完全に被って) はい。はい。はい。はい。
そしたらこちらにお金を入れて、
塀島 (完全に被って) うん。うん。ああ。そう。
せっかくの休み時間なんだよ、それをこんなんじゃさ、
女2 (完全に被って) はい。はい。はい。はい。
ポイントカードのご利用はこちらに、
塀島 (完全に被って) ああ。ああ。なるほど。うん。
あのね。聞いて。それをさ、君ね、
女2 (完全に被って) はい。はい。はい。はい。
そしたら商品を、
塀島 (完全に被って) ああ。ああ。あ。(急に切り替わり、カッコーのメロディを美声で歌い出す)
二人を見ていた全員、あ。と思っ。

女2 (低い声でテンション低く) あ。お疲れ様です。(下手に去る)

塀島以外、口々に女2に会釈を返す。

宅間父 つし。(と、自分の頭か腹を、自分で押す)
男1 あ。
床山 (再びクーパーペンシルを握り、資料に色を塗り始める)
男2 あ。また。
宅間父 (男1に) ねえ、愛してるの。だからお願い、もう一度、
男1 (男2に) じゃあ俺がメールするよ。(小柱の額を指で押す)
小柱 ピロン！おめでとございますー！千回目のアクセスです！
男1 あれ？
梁田 (化粧ポーチを開けて急に物凄い勢いで化粧直しを始める)

女1 あっ
男1 どした？
女1 また勝手にアップデートし始めた。
小柱 (男1に) このたび多数の該当者から、あなたが選ばれました。賞品の受取はこちらから。
宅間父 (女1に) でも分かっている、どうせ私なんか。そうなんですよ？私なんか。
小柱 (男1の手を引っ張り) さあこちらから。どうぞこちらから。
女1 しばらく仕事にならないわ。
男1 あっ…！

全員、男1を見る。

男1 (高御堂さんになる) やだ。ちょっと待って。待ってって。強引なの、嫌いじゃないけど。好き
かもしれないけど。でも。ちょっと待ってって。
小柱 え
男1 (困った顔を見せる)
女1 え？…誰の物真似？ 誰かの物真似？
男1 (笑って) やだ。違うけど？
女1 え？何？誰？

全員、？。宅間父のみ動き出し、ポケットからカミソリを出す。

宅間父 だったら死ぬから。あんたも一緒に。あんたを殺して。あたしも死ぬから。
女1 ちよっと…！ (立ち上がる)
床山 (この隙にクーピーを持って下手に逃げ出す)
男2 あっ、待って…！ (床山を追う)
男1 (男1を引っ張って) どうぞ豪華賞品をお選び下さい！
女1 (高御堂のまま) やだ！。
誰なの？
宅間父 (カミソリを女1に向けて) だっ…と、一緒なんだから。
女1 もう。勝手に死ぬ！

女1、男1、男2、小柱、床山、それぞれ上手に去っていく。すると堀島、家路のメロディを
美声で朗々と歌い始める。

梁田 あ。お疲れ様です。
堀島 (歌いながら手を上げてそれに答える)
宅間父 (自分の頭か腹を押し) ピ。お疲れ様です。
堀島 (歌いながら手を上げてそれに答え、帰り支度をし、上手に去っていく)

梁田と宅間父も、片付けをする。片付けをしながら、梁田が言う。

梁田 今日は、どうします？
宅間父 ああ。今日あたり、うちに来るか？
梁田 (深く驚き) いいんですか？
宅間父 ああ。そろそろ、ちゃんとしないと。
梁田 そうですか。
宅間父 …。来てくれるか。
梁田 …。はい！

宅間父　そうか。
梁田　嬉しいです。
宅間父　そうか。
梁田　だって、
宅間父　…ん？
梁田　ううん。じゃ、支度して来ます。（下手に向かう）
宅間父　…。私も。
梁田　え？
宅間父　嬉しいよ。
梁田　…そうですか。
宅間父　ありがとうございます。
梁田　（笑って）え。何、言ってるんですか。
宅間父　（笑う）
梁田　じゃ、（再び下手に向かう）
宅間父　あ。うちは、鼻腔だから。（椅子と机を並べ直しながら）
梁田　え？
宅間父　ああ。鼻腔。（椅子と机を並べ直しながら）
宅間父　ああほら。鼻の内部で、外鼻腔から内鼻腔までの空洞を指し、呼吸の際、呼気の通り道ともなる、
梁田　…はい。
宅間父　その、右の方の鼻中隔の（自分の右の鼻の穴を指し）、この辺りにね、間借りしてるから。（わからないけど）…：…わかりました。（下手に去っていく）
宅間父、梁田を見送ると、風の音と共に、照明、切り替わる。

SCENE「自宅」

宅間、青い物体を抱えたまま、鞆を肩に掛け、ドアから入ってくる。
宅間　ただいま。
宅間父　ああ、おかえり。今日は遅かったな。
宅間　ああ、うん。…ちよっとね。（鞆を下ろす）
宅間父　どうした。ん？なんだそれは。（青い物体）
宅間　ああ、気にしないで。（青い物体を肩に掛け、冷蔵庫から缶ビールを出して飲む）
宅間父　どうしたんだ。
宅間　あー。別に。
宅間父　なんだ。仕事で何かあったか。
宅間　…。
宅間父　なんだ。いいか。仕事なんてのはそりゃ、大変なもんなんだ。父さんだって毎日な、（遮って）分かってる。
宅間父　それでもこうして暮らすのが精一杯だ。だから仕事の事でいちいち気落ちしたら、（遮って）分かってる。そういうんじゃないから。（缶ビールをゴミ箱に投げ捨てる）
宅間父　あ、おい。缶は洗ってから、
宅間　（遮って）あとでやるから。あとで言うから。（座る）
宅間父　そうか。…吸華。俺もな。今日は、お前に話がな、

白いパーカーをすっぽり被り、白いズボンを履いた女、上手奥から走り込んで来る。

米粒 ああっ！（転ぶ）ごめなさい突然、私。ごめんなさい…！
宅間父 どうしました。
米粒 違うんです、こんなつもりじゃ。私。違うんです…！
宅間父 落ち着いて下さい。
米粒 私、何故こんなことに…。ああ…！本当にごめんなさい…
宅間父 どうしたんですか。
米粒 分からないんです！いつの間にか、私だけ…。ああもう、どうしてこんな、酷い…（泣き出す）
宅間父 あ、あの、何なんですか。
米粒 え？
宅間父 あなた。
米粒 あ、（涙を拭いて立ち上がり）お米粒です。ごめんなさい。（おじぎする）
宅間父 （米粒をよく見て）ああ…
米粒 ごめんなさい、すぐ、出ていきますから。
宅間父 ああ、まあ。そんなにお気になさらずに。
米粒 すぐに食道の方へ…

米粒、出口を探して彷徨い始める。梁田、下手から控えめに入って来る。

梁田 宅間さん、何かありました…？

宅間父 あ。

宅間 あ。

梁田 あっ！ ごめんなさい、何かあったかと思って。

宅間父 いや。米粒が鼻に入っただけだ。

梁田 え？

宅間 （梁田に）こんばんわ。

米粒 （梁田に）こんばんわ。

梁田 （米粒に）あ、こんばんわ。

米粒 （再び彷徨い出す）

梁田 （宅間に）ごめんなさい。こんな、急に。勝手に。

宅間 え？別にそれは。全然いいんです。ほんとに。

梁田 ありがとうございます。

宅間父 （宅間に）梁田さんだ。（梁田に）どうぞ、座って下さい。

宅間 （唐突に笑う）

宅間父 なんだ。

宅間 だって。敬語なんてなんか可笑しい。

宅間父 え？

宅間 （やけに馴れ馴れしく）いいんですよ、いつでも来て。つか。もっと早く来れば良かったし。

宅間父 （梁田を叩く）

宅間 吸華、

宅間父 （父に）そうだよ、可哀想じゃん、梁田さん。（梁田に）だってもう結構、長くない？

梁田 え？

黒ずくめ衣装の男（鼻毛）、下手からやって来る。

宅間 だってこんなに分かりやすい人そうそう居ないよ？いいひと出来たって、すぐ分かったもんね。

宅間父 吸華！

梁田 （思わず笑って）そうなんですか？

鼻毛 (米粒に) なーに?どこ行こうっての? (鼻毛として揺れる)
米粒 えっ

宅間父 (鼻毛の揺れを見て) あ、……鼻毛?
鼻毛?

宅間 このひとほんと、大変だったんだよ。私が聞き分けのいい子で良かったけどね。
鼻毛 ああ。俺一人、抜けちまってねえ。

宅間 それでも男手一つで娘を一人、立派に育てあげてね。(立ち上がって) ほらもう、こんなに立派に。自分の事を後回しにしたせいでもう完全に、シヨボクしてたの。

宅間父 (吸華に) おい。
米粒 やめて。来ないで。

宅間 あ、見てくれシヨボイのは今もだけど。つか、こんなシヨボクレでほんとにいいの? 梁田さん。

宅間父 (吸華に) やめるよ。
梁田 (笑って) 吸華ちゃん、もうやめてあげて。

鼻毛 (米粒を背後から捉えて) いいじゃん。逃げるなよ。
米粒 やめて、助けて。

梁田 (宅間父に) もう、吸華ちゃんには叶わないね。
宅間父 え?

梁田 あなたの娘さんとは思えない。
宅間父 え?

鼻毛 やらけえ肌しやがって。
米粒 いやあっ!

宅間父と梁田、鼻毛と米粒に気を取られる。気を取られた二人を見る宅間。

宅間 だからもう、梁田さん。ここに住んでよ。明日からでも。なんなら今夜からでも。(ゴミ箱から缶を拾う)

梁田 え、
鼻クソ やめたまえ!

茶色づくめ衣装の男(鼻クソ)、下手からやって来る。

宅間父 あ、(鼻くその様子を見て) …鼻クソ?

梁田 鼻クソ?
宅間 (缶を洗いながら) 良かったよ。さっきね、このシヨボクレに、言おうと思ってたの。ほんと

梁田 ちよつど良かった。
宅間 え?何を?

宅間 (洗った缶を握りつぶして) もうちよつとかかると思ってたけど。ほんと良かった。凄くいい夕
イミング。

鼻クソ (鼻毛を殴る)
米粒 (悲鳴)

宅間父 鼻毛…!
吸華ちゃん?

梁田 あ。私もう、いいかげん、ここ、出てくんで。(缶を投げ捨てる)
宅間 そんな。

宅間 うん。お金もだいぶ貯まったし、仕事もほんと順調だし。だからもうね。部屋、借りちゃったし。
鼻毛 何すんだ、てめえ!

宅間　これで安心して、出ていけるし。(鞆を持つ)
鼻クソ　(米粒に)私と行きましょう。ここから逃げるんだ。一緒に。
梁田　だって保証人とかどうしたの？(宅間父に)ちよっと宅間さん、
宅間父　(完全に鼻毛たちに気を取られている)
鼻クソ　そして二人で自由になるう。さあ。
米粒　でも、いったいどこへ？
宅間父　あっ鼻毛が…！
鼻毛　(鼻クソを背後から殴る)
米粒　いやあ！
宅間　だから梁田さん、今日はとりあえず、ここに泊まってってよ。
梁田　でも吸華ちゃん。
宅間　私はほら、新しい部屋があるから。今夜から、そこ、行くから。
梁田　宅間さん、
宅間父　米粒…！(米粒に駆け寄る)
鼻毛　(鼻クソをひとしきり殴り終わり、鼻クソは動かなくなる)俺に逆らうなんて十年早えんだよ。
宅間父　鼻クソ…
宅間　じゃ、母さんに挨拶したら出てくよ。じゃあね、父さん。

宅間、下手の窓(仏壇)を開け、仏壇の鈴を鳴らすと、ヨドバシカメラの音楽が鳴り、ヨドバシカメラの店員、窓の向こうに現れる。

店員Ⅰ　お呼びですか！
宅間　呼んでないです。
店員Ⅰ　そうですか、大っ変、失礼しました！
宅間　(店員を避けて、手を合わせる)
店員Ⅰ　分からない事やご質問ありましたらいつでも呼んで下さいね、お値引きも今ならなんと、
宅間　(仏壇を閉めて父に)じゃね。

宅間、ドアから去っていく。少し間。

梁田　(思わず仏壇に駆け寄り開けると)宅間さん、この中、ヨドバシ？(仏壇の鈴を鳴らす)宅間さん、この中、ヨドバシなの？(鈴を連打)……。呼んでも来ない…。
宅間父　(呆然と鼻クソを見つめたまま)…。呼んでも来ないんだよ、ヨドバシの店員は。
梁田　でもさつき、
宅間父　呼んでない時に、来るんだよ。
米粒　鼻クソさん…
梁田　あ、宅間さん。それより吸華ちゃんが、
宅間父　え？
鼻毛　俺たちと一緒に、なればいいじゃないか。寂しかったんだよ、ずっと。
梁田　宅間さん、いいんですか？吸華ちゃん、行っちゃいましたよ！
宅間父　米粒…
梁田　行き先、知ってるんですか？
鼻毛　行こう。(米粒を優しく下手に連れていく)
宅間父　米粒…
梁田　ああ……。私のせいで。私のせいでこんな…
店員Ⅰ　(ヨドバシの音楽と共に、上手奥から走ってやって来る)はい！お呼びですか！
梁田　呼んでないです。
店員Ⅰ　何をお求めでしょうか、ご案内します。

梁田 結構です、
店員1 どこでもご案内しますから。
梁田 結構ですってば！(店員から逃げ、上手ドアから出ていく)
店員1 ご案内しますってば。(梁田を追って去る)
宅間父 米粒……！

強風の音。

宅間父 あっ……！

鼻毛と米粒、下手に飛ばされ、宅間父は抵抗しながらも下手に吸い込まれ、鼻クソは気を失ったまま、転がり、照明が切り替わる。

SCENE 「コールセンター 2」

道ばた。下手から、コンビニの袋を持った和子と、赤い着物の中年女性(赤血球)、やって来る。

和子 宅間さん……！もう、どこに行ったの？

赤血球 宅間さん……！

和子 ひどいわ。私がコンビニに寄ってる際に、居なくなっちゃうなんて。

赤血球 宅間さん？

和子 どうしてなの。私はただ、早く回収して欲しいだけなのに。

赤血球 和子さん、元氣出して。

和子 だってどうしていつつも、回収しに来てくれないの。何回電話したって、一回も来てくれないのよ。

赤血球 大丈夫。だって今回は、約束してくれたんでしょ？

和子 ……うん。

鼻クソ (目を覚ます) ……誰？

赤血球 きっと回収してくれるわ。だって絶対に回収するって、約束してくれたんだから。

和子 ……。(コンビニの袋からお菓子をとり出して食べる)

赤血球 今はダメでも、いつかするって。宅間さん。約束してくれたんでしょ？

和子 (食べながら) うん。だけど、

赤血球 ねえ、だから、宅間さんを信じて。嘘をつくような人じゃ、ないんでしょ？

和子 (食べながら) うん。だけど、

鼻クソ (辺りを見回し) ここは……？

和子 (鼻くそを見て) あ……

赤血球 ああ。鼻クソが落ちてるだけだから気にしないで。とにかく宅間さんを探しましょう。

和子 (鼻くそを見て) うん。でも……

赤血球 ほら、行きましょう。早くしないと。

和子 徳和？

鼻クソ え？

和子 やだ徳和……？

赤血球 和子さん……？

和子 やっぱり！(鼻クソに駆け寄って) ああ、あんた。どこに居たの。何してたの。

赤血球 和子さん。

和子 (鼻クソに) 心配してたんだから。寂しかったんだから。

赤血球 和子さん。

和子 (赤血球に) 23年よ！(鼻クソに) もう23年も。あんた。何の連絡も寄越さずに！
赤血球 だって和子さん、それ鼻クソよ。
和子 あんた全然、変わってない。
鼻クソ 離して下さい、
和子 変わってないわ。
鼻クソ でも僕は、
赤血球 ちょっと和子さん、
鼻クソ 僕は、鼻クソですから！
赤血球 和子さん、汚いわ！
和子 何言ってるの！我が子の鼻クソよ！汚くなんかいいわ全然。
鼻クソ え、でも…
和子 (鼻クソにしがみついて) ああ、徳くんのこと…。
鼻クソ (それを受け入れる) ……ああ、母さん。
和子 あんた、どうしてこんな所に。あの子、鼻をかんだの？クシャミをしたの？それとも大きな溜息
でも、ついたの？
鼻クソ それは…
和子 ううん。そんな事、もうどうでもいいわ。(鼻クソを再び抱き寄せる) ああ…。
鼻クソ 母さん…。

電話の着信音が鳴る。

赤血球 ん？
和子 あなた、あれからどうしてたの？
鼻クソ ああ。代わり映えしないよ。
和子 うん。
鼻クソ ずっと、鼻腔の中で。
和子 うん。
鼻クソ 毎日、粘ついたり乾いたりしながらさ。
和子 うんうん。
赤血球 どこから…(電話の音源を探す)
鼻クソ まあ、時々は痰になって喉に絡んだりもしたけど。
和子 まあ…。
赤血球 (和子の頭に耳を寄せる)
鼻クソ でも、飲み込まれて消化される事もなくこうして、
赤血球 和子さん。あなた、鳴ってる。

ヘッドセットを装着し、そのコードを手に持った男3やって来る。赤いエプロンをしている。

和子 (赤血球に) え？
男3 (和子の脳天にコードを差す。と、着信音やむ) お電話ありがとうございます！産地直送、朝ゆ
で毛ガニ。獲れたて新鮮、本ズワイガニ。カニ問屋のカニカーニバルです！
和子 は？
男3 ご注文は、極太本タラバギフトカットでしょうか？
和子 なんですか？
男3 今ならお試し三大カニセットがお得です。
和子 要りません。
男3 え？
和子 カニなんて要りませんから。

男3 え？
赤血球 でも和子さん。あなた鳴ってたわよ。
和子 え？

電話の着信音が鳴る。ヘッドセットを装着し、そのコードを手に持った女3やって来る。男3
と同じエプロンをしている。

鼻クソ あ。(と赤血球を見る)
赤血球 え？(と自分を見る)

女3 (コードを持って赤血球に近づいていく)

赤血球 私、鳴ってないです。鳴ってないですから。

鼻クソ でも、

赤血球 要りませんから、ほんとに。

和子 でも、

男3 カニしゃぶズワイは甘みずっしり。

和子 ほんとは欲しいんじゃない？

男3 カニ味噌たっぷり丸ごとご奉仕。

赤血球 欲しくないから。

鼻クソ でも。

和子 ねえ。

赤血球 あ。

女3 (赤血球の脳天にコードを差すと着信音やんで) お電話ありがとうございます！満開、豪快、カ
ニの祭典。カニカーニバルへ、ようこそ！(音楽が流れ、ステップを踏みだす)

赤血球 ああ。

男3 (男3に)毛ガニはどこ産なの？(以降、男3と話します)
はい。北海道はオホーツク海の荒波に揉まれて身もぎっしり。

屋代、鞆を持って上手奥からやって来て、和子に気づく。

屋代 あれ？

赤血球 あ、あなた。お知り合い？和子さんの。

屋代 え？ああ、別に。(行こうとする)

赤血球 ちょっと待って。

屋代 忙しいんで。

赤血球 ちょっとだけ。

屋代 何ですか。俺、これから新しい仕事で。

赤血球 ほら(刺さったコードを抜く。音楽、途絶える)

女3 あ。(ステップやめて、気の抜けた待機状態に)

赤血球 宅間さんって方、あなた、ご存知ない？

屋代 タクマさん？(首を捻る)

赤血球 宅間さんよ。今日、お電話でね。和子さんの回収を、約束してくれたらしいんだけど。

屋代 (思い出す)あー。セックス。

赤血球 え？

屋代 その、何だっけ(思い出せない)。セックスがどうかしたの？

赤血球 ああ。その方はどこに行ったのかしら。私達、探してるよの。早くね、回収して欲しいの。和子

さん、もう駄目なのよ。色々あって。随分前から、生きる意味を失って。生きる気力も失って。

鼻クソ え、そうなの？

赤血球 ええ。だからもう、辛いよ。だから何とかしないとイケないの。

屋代　でもカニを注文してるよ？
和子　でもそれカニ味噌入ってるの？
赤血球　（カニを注文している和子に気づく）ええ、今はカニを注文してるけど、本当にこのままじゃ辛いよ。
屋代　あ。（と、なんとなく上を見る）

電話の着信音が鳴り、女3、音源を探しだす。

赤血球　（屋代に）だめ！カニの事は考えないで！

着信音やみ、女3、再び待機状態。

鼻クソ　（和子に）ねえさっき僕の話聞いてた時、カニのこと考えてたの？
赤血球　最愛の息子さんとも、ずっと会えなくてね。
鼻クソ　ねえ無意識にカニのこと、
赤血球　それに和子さん、このままじゃ…
屋代　あなたは？
赤血球　え？
屋代　あなたは和子さんの、家族？友達？
赤血球　ああ私は、血球です。赤血球。
屋代　赤血球。
鼻クソ　え？
赤血球　はい。和子さんの血液循環によって肺から得た酸素を取り込んで、体の隅々の細胞に供給したり、同時に二酸化炭素の排出を。
鼻クソ　そうだったんですか。有難うございます。母が大変お世話になって。
赤血球　いえ、お礼なんて言わないで。違うの。
鼻クソ　でも、
赤血球　ずっと和子さんの体内を巡ってたっていうのに、私、何も知らなくて。
鼻クソ　でも、
赤血球　それに和子さん…
鼻クソ　え…？

とても大きな電話着信音が鳴る。全員、それに反応する。

赤血球　何…？

屋代　ああ。（鞆からヘッドセットを出して装着し、コードを地面に思い切り差す。着信音やむ）お電話ありがとうございます。地球お悩み相談所、アース寄り添いホットラインです。……はい。……はい。あー。なるほど。
鼻クソ　え。……地球、から？

全員　（なんとなく屋代に近寄り、耳を澄ます）

屋代　ええ。ええ。なるほど。それは酷い…（何かメモを取る）はい。はい。……ええ？

全員　（屋代に近寄り、耳を澄ます）

屋代　え…！　そうなんですか？

全員　（耳を澄ます）

屋代　嘘でしょ？

全員　（耳を澄ます）

屋代　あははは！まさか！いや、ごめんなさい。

全員　（驚く）

屋代 でもそれ。エロ過ぎでしょ。
全員 (耳を澄ます)
屋代 え？いやいやほんとに。えっ、高校球児が？えっ、高校球児に？えっ？、高校球児で？！ あはははは。

地響きと共に、全員揺れる。

屋代 あ。ちよつとあんまり笑つと。あ。あはは！ (涙が出るほど笑つて) くだらねえ。スカウトにスカウトがつて。え？監督の？

更に地響きと、建物や道の崩れる音と共に、全員揺れる。各々、声をあげ、悲鳴を上げる。

鼻クソ 母さん！

和子 徳くん！

赤血球 和子さん！

和子 赤血球！

屋代 (笑いながら) くだらねえつすよ！もーやめて下さいよ。もう切りますよ？え？駄目ですよ！暇つたつてそんなん。ええ。いいですけど駄目です。ええ、はい。

屋代を残して、全員、逃げ去っていく。音、小さくなっていきながら。

屋代 ええ。はい、また。はい。はい。はい。はい。はい。はい。じゃまた。何かあったらですよ？え？あ、はい。またー。(コードを抜く)

地震の地響き、やむ。しかし上手から短い地響きが、断続的に響く。

SCENE「朝」

庭先、ファラオの頭巾を被り、地響きと共に、上手奥から長いロープを引いてやって来る。

屋代 あれ？庭先さん？

庭先 あー屋代。

屋代 何してんの。

庭先 何って帰るんだよ。

屋代 え、どこから。

庭先 受付センター。

屋代 え、粗大ごみ？

庭先 やっぱクビだつて。

屋代 あー。それで。

庭先 参つたよ。

屋代 凄い荷物だね。

庭先 ああもうあそこに、23年居たからね。

屋代 あー。そうか。

庭先 手伝つてよ。

屋代 やだよ。(上手を見上げて) つか、なんでピラミッド？

庭先 え？

屋代 ピラミッドでしょ？あれ。

庭先 ああ。(ロープを下ろす)

屋代 持って帰るの。

庭先 うん。だって死ぬとき要るじゃん。

屋代 ああ。

庭先 あー疲れた。(しゃがむ)

屋代 (見上げながら) どこにあったのこれ。

庭先 え？更衣室。更衣室のロッカー。

屋代 あー。(再び上手を見上げる)

庭先 だってまさかクビになるとは思わないじゃん。

屋代 (見上げたまま) まあね。

庭先 しかもこんな急にさ。

屋代 うん。

庭先 あーあ。(立ち上がった) 人柱だって随分立てたのにさー。(タバコのように細い笛を取り出し、吹き、鳴らす)

屋代 そうなの？

庭先 うん。(笛、鳴らす) ここだけの話、結構立てたよ。(笛、鳴らす)

屋代 新人、よく居なくなつてたけどあれって。

庭先 ああ、あと(笛、鳴らす)、前の主任と前の前の主任と副主任とか？(笛、鳴らす)

笛、鳴る度に照明が不穏な感じになっていく。下手の方から少しだけホルス神の頭が覗く。

屋代 あ、ちよつとそれやめて。なんか。

庭先 ああごめん。ホルスとかラーとかが、ゲブとかヌトと、アマトから来ちゃうか。(笛をやめる)

照明、元に戻る。

庭先 屋代は？どうしてんの？

ホルス、去っていく。

屋代 (ホルスの去つた方を見て) もー。俺はまあ、はにわでいいからさ。はにわ？

屋代 うん、はにわ。もう結構埋めたよ。あそこの受付センターからぐるっとそこのビルの向こうの方まで。

庭先 へー。(遠くを眺める) すごいね。

屋代 うん。あ。ここらがほら。あの、丸い。ほら、あの、前方後円墳の、丸いところ？それでそっちが…、こういう…(四角い)

庭先 へー…(地面を見る) なんだ。安心した。あんた意外とちゃんとしてんだね。

屋代 だって死ぬとき、困るじゃんよ。

庭先 だよなー。あーあ。このさき建設、どうすりゃいいんだろ。

屋代 ああ。俺だってまだ堀に水張れてねえし。大変だよー。(鞆をぐるぐると振り回す)

すると、不思議な音と共に、照明がぐるぐると、明るくなったり暗くなったりを繰り返す。

庭先 ……あ、ちよつと。

屋代 ……あ。(鞆を振り回すのをやめる)

照明、元に戻る。

屋代 やつべ。アマテラスがニニギに捧げた、八咫鏡(やたのかがみ)と八尺瓊勾玉(やさかかのまがたま)と天叢雲劍(あめのむらくものつるぎ)が入ってんだった。(と鞆の中を見る)

庭先 (上を見上げて) なんか多分、いま太陽が、地球の周りをだいぶ回ったよ。もうけっこう何日か、経っちゃったよ。
ごめんごめん。

雀の鳴き声が聞こえる。

ジャム あ、おはようございます。
バタコ おはようございます。

ジャムおじさんっぽい人とバタコさんっぽい人が窓を開ける。屋代と庭先、あ。と思う。

ジャム どうしました？疲れた顔をして。

庭先 ああ、もう。疲れてるんです。(頭巾を取る)

バタコ では、どうですか？一休みして、パンでもひとつ。

屋代 パン。

ジャム はい。昨日の残りがまだありまして、まだ充分、食べられますから。私の、パン工場のパンが。パン工場の。

バタコ ええ。廃棄するのも勿体ないんで、よろしければ。(バスケットいっぱいのパンを差し出す)

屋代 いいんですか？

ジャム どうぞどうぞ。召し上がって下さい。

屋代 あ。じゃ。いただきます。(受け取る)

バタコ あなたもどうぞ。

庭先 あ、私は。食べちゃって下さいよ。食べて頂けると助かりますから。

バタコ (庭先に) おい、沢山あるぞ。

ジャム はい。あんぱん、食パン、カレーパン、ロールパン、クリームパンなんかの、余りの生地で作ったパンですが。(※パンはコロコロとした丸パンがたくさん)

屋代 へえ。(一つ手に取る)

バタコ あ、それはあんぱんの。(嬉しそうに) じゃ、私は。(一つ手に取る)

庭先 あ、それはメロンパンの。(嬉しそうに) いただきます。

バタコ いただきます。

屋代 まあどれも余りものなんで、動いたり喋ったりはしませんけど。

ジャム ?

屋代 でも意識はありますから。

ジャム 意識？

屋代 はい。何かしらの。

バタコ 意識が。

屋代 はい。芽生えてます。恐らく薄っすらと。

ジャム (パンを見る)

屋代 或いはしっかりと。

バタコ (パンをバスケットに戻す)

庭先 何らかを何らかの形で、彼らなりに認識したり、思考したりもしているかもしれません。

ジャム (パンをバスケットに戻す)

屋代 だからどうぞ、食べてやって下さい。

ジャム いやです。

屋代

ジャム (驚き) どうしてですか？

屋代 だって。

ジャム だってこのままじゃ、廃棄されるだけなんですよ？

屋代 だって。

バタコ (下手から出て来て屋代に) 可哀想だとは思わないんですか？

屋代 え。

ジャム (下手から出て来て庭先に) 彼らは食べられたがってるんですよ？

庭先 でも。

ジャム (パンを両手で掴んで) だから食べてやって下さいよ。

屋代 そんなの、分かんないじゃないですか。

ジャム 分かんないんです。食べられたがってます。

屋代 だってそんなの、分かんないじゃないですか！

バタコ だって！食べられたがってなかったら私達は！私達はいい、何を作ってるんですかー！

庭先 (思わず逃げる)

ジャム このパンをね！私は毎日毎日、こねて焼いてね、町の住人に！子供たちにも！食べさせてるんで

すよ！ああそれにね！喋れるようになったら、おじさん有難うってね！喜んで自ら食べられて！

それも全部、嘘だってんですか！え？！

そうかもしれないじゃないですか！

屋代 (発狂しそうになる)

バタコ (屋代の頬を平手打ちしてジャムに) 落ち着いて。大丈夫。彼らは食べられたがってる、食べら

れたがってるから。だって、

ジャム 私は毎日、何をー…！(頷れる)

バタコ (パンを拾って、ジャムにうる覚えで歌いかける) そうだ♪うれしいんだ♪はんは、よろこび♪

ジャム たとえ♪はんはんはん、はんはん、でもー♪

バタコ (パンを拾って、うる覚えで歌う) ……なんのために、ふんふん… (立ち上がる)

ジャム なんのために、ふんふん… (ジャムを支える)

ジャム・バタコ ふんふん、ふん (と、歩きだし) そんなのは、いやだ♪

(それぞれバラバラの歌詞で) そらと、ゆめと、もりと、とりと、かぜと、ゆきと…

歌いながらジャムとバタコ、下手に去る。それを無言で見送る、屋代と庭先。見送ってから。

屋代 ああ。そのパン。ブエノスアイレスに行きたがってんね。

庭先 え？何？

屋代 (庭先の持っているパンを見て) 何って。アルゼンチンの、ブエノスアイレス。

庭先 (パンを見て) そうなの？

屋代 うん。

庭先 なんて？

屋代 知らないけど。うん。行きたがってるね。

庭先 じゃ。(と、別のパンを屋代に見せる) これは？

屋代 え？ああ、まあ。(目を伏せて) そいつはいいよ。しまつとけよ。

庭先 え？なに？あのパンは何か、したがつてんの？考えてんの？

屋代 ああ。いいよ。放つとけよ。(こっそり) しょうもない奴だよ。反吐が出るよ。穢らわしい。

庭先 (パンを見て) そうなの？

屋代 うん。

庭先 (パンをまじまじと見る)

窓が少し開き、その隙間からジャムおじさんとバタコが、屋代と庭先を覗く。

庭先 (窓に気づき) あ…
 屋代 (バスケットのパンを一つ見つけて) あ、こいつは、
 庭先 (屋代をとめて) いいから。行こう。(大きな声で) わあ、美味しそう。(と屋代を引っ張る)
 屋代 え？なんだよ。こいつすげえって。すげえエロいって。(手で自分の目を隠してチラ見など)
 庭先 いいから(大きな声で)どれから食べようかなー！あ、これにしよう！(テキトーに一つ取る)
 屋代 あ。
 庭先 (屋代を離して、ロープを持ち、上手奥に去っていく) わあ、ほんと美味しい！
 屋代 あ、ちょっと待って。そいつはブエノスアイレスに。アルゼンチンの、ブエノスアイレスに。お
 い！
 ジャム あっ…！(庭先が去るのを見送ると、高御堂さんになる)
 屋代 ?
 ジャム ううん、ダメダメ。(手を叩き) さ、気持ち、切り替えていきましょよ。
 バタコ え？
 ジャム (伸びをしてから) アディオス、ネガティブな私。(ポーズ)
 バタコ え？
 ジャム (お茶目な顔)
 バタコ ……なんですか？誰の物真似ですか？
 ジャム (やけに照れて) え？やだ。違う違う。
 バタコ (屋代に) え？誰？
 ジャム さ、行きましょ。(去っていく)
 バタコ え、ちょっと誰。(窓を閉めてジャムを追う)

下手奥から宅間吸華、肩に青い物体を乗せたまま、コンビニの袋を持って通りかかる。しかし青い物体は、前より少し、大きくなっている。

SCENE 「自宅」

屋代 あ。
 宅間 あ。
 屋代 おはよう。えっと。誰だっけ。(考えて) ペッティング？スワッピング？ 手コキ？足コキ？
 宅間 (考えて) ……パイズリ？
 屋代 (思い出して) ああ！セックス。家、行っていい？
 宅間 駄目です。
 屋代 どうして。
 宅間 狭いんで。
 屋代 でも実家だったよね。家族はいつ留守になる？
 宅間 いえ。家は、出たんで。
 屋代 え。じゃ一人暮らしか。丁度いいじゃん。行こう。(歩き出す)
 宅間 ほんとに狭いんで。
 屋代 全然いいよ。家、どこ。
 宅間 え？
 屋代 毛穴。
 宅間 え？
 宅間 なので無理です。

白づくめ衣装の女(皮脂)、上手奥から転げ出てくる。

皮脂
ああっ…

宅間
あ、皮脂…？(駆け寄って) どうしたの？皮脂。

皮脂
あ、吸華ちゃん…

宅間
え、毛穴吸引？皮脂洗浄？(皮脂をよく見て) ウォーターピーリング？スクラブクレンジング？

皮脂
…ごめんね。私…、掻き出されちゃった…

宅間
嘘、そんな。

皮脂
だからごめん。私に構わず、早く戻って。

宅間
でも、

皮脂
でないと毛穴が…

宅間
でも、

皮脂
毛穴が引き締まるわ…

宅間
でも…

皮脂
あの毛穴が閉じたら、あなた、行く場所ないんでしょう？だからさあ、早く…

宅間
……。

皮脂
私はもう二度と、戻れないから…。

宅間
……。有難う。ごめん、皮脂…！(上手奥に走っていく)

屋代
……。(宅間を見送ってから皮脂に) 皮脂？

皮脂
はい…

屋代
(鞆から毛穴パックを取り出す)

皮脂
え、やめて。

屋代
(毛穴パックの袋を取り出す)

皮脂
シートに含まれるポリマーで、私をつまんでピックしないで。お願い…(やっと立ち上がる)

屋代
(毛穴パックを皮脂に向けて近づいていく)

皮脂
やめて…

屋代
ごめん。俺、これ好きで。

皮脂
それ、お肌が悪いのよ。お肌に与える刺激が(下手奥の方へ逃げる)

屋代
構わないから。

皮脂
やめて！(下手奥に逃げ去っていく)

屋代
待って、取らせて。(下手奥に追って去る)

照明、切り替わる。上手のドアを叩く音がする。

美和(声)
おーい。居ないのー？ねえ。

ドアを開け、美和、入ってきて、中を見回す。

美和
あー。やっぱりここも、クレンジングされちゃったか。

ドアから宅間、駆け込んで来る。

美和
あ、皮脂は？

宅間
(首を振って) 隣の毛穴ですか？

美和
うん。

宅間
そうなんですな。

美和
(青い物体を見て) あ、それ、置かないだけの方？

宅間
え？あ…(物体が少し大きくなっているのに気付く)

美和 : ねえ。その若さで毛穴暮らしなんて。あなたも何か、訳ありなんでしょ？
宅間 いえ私は別に。そんなに若くありませんし。
美和 (笑って) やだ。隠さないですよ。私なんかほら、(腕を捲り、手首の包帯を見せる) 死に損ないよ。
宅間 え
美和 三日前に振られた男から、急に電話があつてさ。それでそいつ、何て言ったと思う？ 勝手に死ねってさ。(手首を見せて) そんなでこれよ。
宅間 そうですか…
美和 さんざん私を振り回して、さんざん勝手したあげくに振ってさ。私なんか精神ぼろぼろなつて、仕事もやめて実家に籠ってたつてのにさ。あいつはのうのと暮らしやがって。

小柱、鞆を持ち、ドアから駆け込んでくる。

小柱 ああ、美和！どこに行ったかと思った。
美和 そんなで私だけこんな目に合うなんておかしいでしょ？だから殺してやろうと思って。
小柱 駄目だよ。勝手に出歩いちゃ。
美和 そんなでここに来たんだけど。その準備のために。
小柱 早く元気になって。
美和 だけどさっきの地震で。
小柱 そしたら結婚しよう。
美和 ズレたの。
小柱 いいでしょ？
美和 (小柱に) 勿論。
小柱 嬉しいよ。
美和 (宅間に) ズレたのよ。
宅間 断層がですか？
美和 ううん。人間関係。
宅間 え？
美和 (小柱に) 小柱さん。愛してる。
宅間 俺もだよ、美和。(美和を抱きしめる)
美和 (宅間に) ね？
宅間 は？
美和 だからこう、何か、ズレたのよ。
宅間 地震で。
美和 うん。だから今は、とっても幸せ。
小柱 この子？仕事探してるって。
美和 うん。何か紹介してあげられないかな？
宅間 あ、お願いします…！

下手奥から、黒ずくめの中年女性(角栓)、こっそり覗く。

美和 (中年女性に気づき) あ。
小柱 (宅間に) どうも。私、レンタルリースで。(椅子を持って来る)
宅間 あ、はい。(椅子を持って来る)
小柱 レンタリースで契約先のOYA機器を務めてます、小柱です。(OYA機器のパンフを出して) 我々は様々なOYA機器として、多くのオフィスに(椅子に座る)
宅間 あ、知ってます。
美和 誰？

シッ!

角栓 私やそう簡単に洗淨されないよ。

角栓!

美和 父が勤めてますから。同じくOA機器として。(椅子に座る)

小柱 あ、そうなんですか。

美和 (宅間に) ねえ角栓が、

角栓 (素早く美和に近寄り、首を絞める)

小柱 (パンフを捲って) それじゃ話が早いや。弊社は今、広くOA機器の募集をしまして。

宅間 でも私は、OA機器じゃ、ないんで。

小柱 ええっ?!

宅間 ごめんなさい。でも仕事は何でもしたいんです。何かありませんか。

角栓 (首を絞めながら) 悪いね。私や見つかるわけにはいかないんだよ。

美和 (無言で反撃)

小柱 ーそうか、そうですね(パンフを捲って) レンタリース品として他には、オフィスチェアやデ

スク、またはケータリングボックスなんかも、

宅間 でも私、チェアでもデスクでも、ケータリングボックスでもないんで。

小柱 えっ、あっ、はははは! いや、あ、そうですね。

宅間 すみません、

小柱 えっとじゃあ、何なんですかね。

宅間 え?

小柱 あなたは。

宅間 え?

小柱 OVA機器でもオフィス家具でもなかったら、何なんでしょう、あなたは。何に使えますか?

宅間 …。

美和 (角栓と互角の争いで、睨み合うか掴み合っている)

宅間 (パンフを閉じて) うん。じゃ。ま。オフラインアドネットワークネイティブバナーリスティング

プロモーションですね。

宅間 はい?

小柱 オフラインでアドネットなネイティブバナーリスティングを、プロモーション展開して頂きます。

宅間 はあ。

小柱 こちらでしたらもう、すぐに決まると思いますよ。恐らくご契約後、即、お仕事が始められま

す。ご契約さえして(頂ければ)

宅間 (遮って立ち上がり) やります。

小柱 あ、そうですね。

宅間 はい。それ、やらせて下さい。今すぐ。お願いします。

小柱 分かりました。では、ワン・ワードにつき、〇二円です。すぐに契約、出来ますから。ちょっとお待ちを。(上手に向かいながら美和に) なあ。これが終わったらさ、結婚の日取りを

ちを。

地鳴り音。

小柱 あ、また地震。

宅間 え。

地面揺れる。少しして、揺れ、おさまる。

小柱 (角栓に駆け寄り) 大丈夫か。

角栓 ああ。

小柱 よかった。あなたに何かあったら俺は。

角栓 大丈夫だ。だって私や…
小柱 ここから出ませんか？
角栓 え？
小柱 一緒に。
角栓 小柱さん。
宅間 あ。またズレた？
小柱 ああ、角栓…！（角栓を抱きしめる）
宅間 （美和に）またズレました？人間関係。
小柱 （宅間に）じゃ、契約はしときますから。（美和に）ごめん、美和。（角栓に）行こう。
角栓 （美和と宅間に）ごめんなさい。あたし、幸せになります。
美和 ちよっと待って、

小柱と角栓、手を取り合って、ドアから出ていく。すると不穏な音がし始める。

宅間 （周囲を見て）毛穴が。

美和 あっ、角栓…！

宅間 あ、

美和 毛穴が閉じちゃう、急いで！

宅間 はい！

美和と宅間、急いでドアから出ていく。不穏な音、大きくなって、毛穴が閉じる。

SCENE 「自宅 3」

毛穴の閉じる音の後、雷鳴から雷雨の音。古い電話のベルの音が鳴る。照明。切り替わる。

血小板(声) 待って下さい、危ないです。

下手から杖をつき、ワインレッドのパジャマの上にベージュのバスローブガウンを羽織り、ボアのスリッパを履いた克徳、つんのめりながらやって来る。小間使的な和服の血小板、車椅子を押し、それを追って来る。

克徳 うるさい、黙れ。

血小板 でも転びでもしたら、

克徳 やめる、触るな。

血小板 でも、

克徳 （杖を振り）和子かもしれんぞ！

血小板 あ…

（電話に向かって再び歩く）何日も帰って来ないなど信じられん。（杖で床を思いきり叩き）どうしてやるのか。

血小板 旦那様、私が出ますから。（電話に走る）

克徳 （血小板の足か胸を杖で叩く）余計な真似をするな。

血小板 あっ、（うづくまる）

克徳 （電話を取る）大山月笙馬だ。

血小板 （克徳の様子を伺う）

克徳 ……あ？ふざけるな！

血小板 （ひいと思っ）

克徳
で？…ああ、ああ（※血小板、様子を伺う）なんだと！（※血小板、ひいと思う）嘘をつくな、そんな事があるわけないだろう！（※恐怖）え？まさか、そんな…（※血小板、様子伺う）そんな馬鹿な（※伺う）いや、そうだったのか（※気になる）それで大丈夫だったのか？（※心配）ああ、無事だったのか？（※心配）なに？！更にそんな事が！（※更に気になる）信じられん、で？（※気になる）なんだ、そうか！（唐突に大きく笑って）で？（※とても気になる）あ…（唐突に涙ぐんで）そうだったのか…。ああ。うん。うん。いや、（涙拭いて）ありがとう。じゃ。（受話器を置く）

血小板 どうしたんです？何があっただんです？

克徳 （一転、不機嫌に）ああ、また名作電話だ。

血小板 え？めい…？

克徳 （迷惑そうに）ああ。非常に名作だ。（と、杖で電話を叩き落とす）

旦那様、

克徳 （杖を放り出して歩き）全く、何の連絡も寄越さないと。あいつはどこに行ったんだ。

血小板 あ、危ない、転びます、

克徳 （地団駄を踏みながら）おかしいじゃないか、こんな勝手が許されると思うか。

旦那様、おやめ下さい、

血小板 （更に激しく地団駄を踏みながら）いったいどこで何をしてるというんだ。え？

血小板 危ないですから、

克徳 （両足で激しく屈伸しながら）どうして帰って来ないんだ。え？どうしてなんだ。え？

あっ、旦那様、やめてください、

克徳 （急に全速力で走り出して）どこに居るんだ（走り回る）

血小板 （追いかけて）待って下さい、危ないです！

（ケタケタと笑い声を上げる）

リンゴンと呼び鈴が鳴る。

血小板 （追いかけている）あ、はい、開いております。

克徳 （転んで倒れる）

鼻クソ、上手ドアから入って来る。

鼻クソ あ、あの。突然すみません。

血小板 あ、どなたの鼻クソでしょう。ご用件は。

鼻クソ あの。こちらに母さ、いや。和子さん、お戻りではないですか？

克徳 なんだ。和子の知り合いか。

血小板 さ、旦那様、こちらに。（と、克徳を車椅子に座らせる）

克徳 （座りながら）すまんね。私は先日、初めての立つちが出来るようになったばかりでね。

鼻クソ え？

克徳 （鼻クソと目を合わせずに）で？君は和子がどこに居たのか、知っているのか。

鼻クソ あ、はい。でも、数日前の地震で逸れてしまって（と、克徳に近づくと）

克徳 あっ！あっ！あっ！あっ！（と、泣きそうになり、手足を思い切り突っ張る）

血小板 失礼します（素早くガラガラを出して克徳をあやす）

克徳 （泣くのをやっと堪えて）あ、失敬。最近是人見知りや疳の虫が激しくて困る。

血小板 （鼻クソに）申し訳ありません。成長ですから。

鼻クソ え？

血小板 成長なさってるんです。

克徳 で、和子はどこに。

鼻クソ え？あ、はい。それが、地震で逸れてしまったから、探し続けているんですが…。

克徳 見つからないのか。

鼻クソ はい。それで、とても心配なんです。和子さん、何かあったんでしょうか。

克徳 (とても難しい顔をしている)

鼻クソ いえ、すみません。僕は何も知らないんです。何も知らないし、本来、僕なんか…。でも和子さん、僕のこと。(克徳を見て) 僕のことを…。

克徳 (とても難しい顔で克徳を見つめて立ち上がり。両手を鼻クソに差し出す)

鼻クソ (克徳に近づき) 父さん…。(その両手を取る)

克徳 (その手を引き寄せ鼻クソを抱き寄せ、力む)

鼻クソ あっ、臭っ

血小板 (鼻クソに) 申し訳ありません。旦那様はまだ、物心がついてませんから。

鼻クソ え…

克徳 (ガニ股のまま、好きな方に歩き出す)

血小板 (克徳に) さ、きれいきれいしましょう。(下手に向かって) 旦那様、大奥様。お客様です。

大奥様、素敵なネグリジェにガウンを羽織っている。旦那様、チョッキを着た部屋着。その後ろからヨドバシ店員2。

大奥様 何ですか、不躰に。

旦那様 どなただね。

店員2 お呼びですか？

血小板 呼んでません。

店員2 そうですか！(と答えつつ、そのまま居る)

大奥様 これからもう一眠りしたいのにとんだ迷惑です。ああほら、スリッパが。スリッパが違うわ。

血小板 私はこれじゃないのが履きたいのに。いつものを持って来て頂戴。

大奥様 あれは昨日壊れてしまって、新しいのを買ったじゃないですか。

旦那様 (スリッパの片方を投げつけて) これは嫌なの！

血小板 こら、我儘を言うんじゃない。

血小板 では大奥様は、お昼寝しましょう。(手を差し伸べる)

店員2 はい、お昼寝にはスリープ・ミー ホワイトノイズマシン。様々な雑音を包み込み、音によるイライラからあなたを解放します。(手を差し伸べる)

大奥様 やめてちょうだい(手を引っ叩く) しませんから。(手を引っ叩く)

血小板 でもさっき、

大奥様 やめて。私はもうちっとも、眠くありませんから！(しかし唐突に眠る)

店員2 あっ、お客様。(大奥様を支える)

血小板 客じゃありません。(大奥様を椅子に座らせる)

旦那様 (鼻クソに) 悪いね。あれは最近、やっと物心がついてね。イヤイヤ期に突入だ。

鼻クソ イヤイヤ期。

旦那様 ああ。自我の芽生えだ。

鼻クソ 自我の。

旦那様 で。何の用だね。私は今、忙しいんだが。(と、手に持っていた本を見せると、はじめての足

鼻クソ 足し算と書いてあるドリルで、鏡文字混じりで、おおやまげっしょま、と書いてある)

鼻クソ 足し算ですか。

旦那様 ああ。一桁からの繰り上がりだね、意外に難しいんだよ。

鼻クソ 成長、ですか。(ガラガラで遊んでいる克徳や、グズっている大奥様を見る)

旦那様 ん？

鼻クソ 皆さん、成長を、してるんですね。

旦那様 (笑って) ああ、もちろんだ。我が一族は、常に成長している。そうしてずっと、やって来た

鼻クソ んだ。そうだ。(血小板に) 孫のあれは、どうした。ここの所また、顔を見ないが。

血小板 あ、美和様なら、この間また、家を出たきりで。

大旦那様 なんだ、いつまでもフラフラと。

鼻クソ 美和？

大旦那様 ああ。あいつなんか、まだ卵子だ。

鼻クソ 卵子。

大旦那様 ああ。細胞分裂はおるか、受精もまだの、ただの卵子だ。

鼻クソ ……

大旦那様 そろそろ何とかして欲しいものだが…。

鼻クソ ……じゃ、徳和も…？

大旦那様 ん？

鼻クソ 徳和は、

大旦那様 徳和？

克徳 臭いまま失敬。父さん。これは和子を知ってるらしい。

大奥様 (臭さで目を覚まし声をあげる)

大旦那様 なんだ。そうなのか。

鼻クソ じゃ。徳和もまだ、精子なんですか？

大旦那様 いや。あいつは違う。あいつは違うんだ。

血小板 徳和様は、ご家族のごなたにも似ていらつしやらなくて。

大奥様 ああ。あれだけ違うんだ。おかしな話だよ。

克徳 しかしお陰で助かっているじゃないですか。

大奥様 でもおかしいだろう。

克徳 母さん。

大奥様 (臭さに声をあげる)

克徳 で、(鼻クソに)お前は何なんだ。(店員に)お前は誰なんだ。

鼻クソ はい、鼻クソです。

店員2 はい、村田です。

鼻クソ 徳和の…(顔を伏せる)

店員2 ヨドバシ上野、2号店の…(顔を伏せる)

克徳 えっ

大奥様 まあどうしてそれを早く言わないんでしょう。やっぱり本人に似るのね、あの子も無口で。

克徳 (遮って立ち上がり) なんだそうか！いやよく来た。いや昨日もな、あれだ、目クソと歯クソ

がな、来たんだよ。

鼻クソ え、

克徳 奴らもあれだ。あいつから零れ落ちたから、ご挨拶にって、立ち寄ってくれてな。何だっけ。

何年か前に眼球に飛び込んで来たっていうホコリと、歯に挟まったっていうゴマを連れてな。

ああ。可愛いホコリとゴマだったぞ。流石、あいつの目クソと歯クソだな。ああ。幸せそう

だった。で。お前はどうかなんだ。鼻に何か、入り込んで来た子は？ ……なんだ。いるんだる？

よろしくやってんだる？ ……ん？どうして連れて来なかった。ん？

いや、まあ僕は…(顔を伏せて克徳から離れる)

で、村田さんは？お仕事どうですか。やっぱり接客業ってのは大変でしょう。

いや、まあ私は…(顔を伏せて克徳から離れる)

何でしょうあの子は。スキンケアでもしてるのかしら。次から次へと色んなクソが来たら困る

わ。

大旦那様 湯上りなんだよ。(立ち上がり)徳和の奴、この雨で湯冷めして、風邪でもひいたら大変だ。

(窓の方へ行く) だいぶ気温も、下がってきた。(と、窓を開け、空を見上げる)

雨の音。照明、少し変わる。

大旦那様
鼻クソ
え？いや、どうでしょう。

大旦那様
鼻クソ
（向き直って）鼻を垂らしたか。どうなんだ。

大旦那様
鼻クソ
いや、

大旦那様
鼻クソ
あいつに風邪でもひかれたら、困るんだよ。（雷が鳴る）

大旦那様
鼻クソ
どういうことですか。

大旦那様
鼻クソ
大山月笙馬家は以前、この一帯の土地を、所有していました。

大旦那様
鼻クソ
ええ。主に千代田。そして文京。あと中央、港の辺りもだったかしら。

大旦那様
鼻クソ
はい。各所にも広大な土地を持ち、代々、その貸付けや売買を。

大旦那様
鼻クソ
ええ。代々、そうして、やって来たんです。

大旦那様
鼻クソ
しかし時代は変わった。

大旦那様
鼻クソ
はい。

大旦那様
鼻クソ
20年前だったわね。

大旦那様
鼻クソ
はい。

大旦那様
鼻クソ
20年前のポケモンショックで、我々は全ての土地を失っただけでなく、多額の負債を抱え、

大旦那様
鼻クソ
え？何ショックですか。

大旦那様
鼻クソ
ポケモンです。

大旦那様
鼻クソ
しかしそれを救ってくれたのが、徳和だ。

大旦那様
鼻クソ
はい。土地として、徳和様の売買と賃貸を。

大旦那様
鼻クソ
え？

大旦那様
鼻クソ
それはもう大きく大きく成長なされたので、その穴という穴の全てを、売買と賃貸に。

大旦那様
鼻クソ
…。

大旦那様
鼻クソ
それでも以前には足りませんがね。

大旦那様
鼻クソ
母さん。

大旦那様
鼻クソ
だって。あの子、体だけがひたすら大きくなるばかりで、何も言わない、何も出来ない、ほと

大旦那様
鼻クソ
んど動きもしない、木偶の坊じゃないですか！

大旦那様
鼻クソ
（大奥様を制して）我々は、あいつの、目、耳、鼻、口。虫歯の穴まで。臍や肛門や尿道から、

大旦那様
鼻クソ
全ての内臓の中まで。人に、テナントに、売買と賃貸をしてるんだ。毛穴に至っては、無数だ

大旦那様
鼻クソ
ぞ。

大旦那様
鼻クソ
はい。今や千代田、文京の人口の、ほぼ0パーセントが徳和住まいです。お陰で我々は、

大旦那様
鼻クソ
だから何？ ああ。先々代は偉大でした。立派に成長されて、全ての九九をソラで唱える事が

大旦那様
鼻クソ
出来ました。それがあの子に出来まして？あなたに出来まして？

大旦那様
鼻クソ
（大奥様の頬を平手打ちし）私だって今、第一成長期だ！

大旦那様
鼻クソ
（驚いて泣き出す）ああ、和子はどこに行っただ。

大旦那様
鼻クソ
旦那様、

大旦那様
鼻クソ
ああもういや、何なの。何このガウン、変な色。（脱ぎ出す）他のを持ってきて頂戴。

大旦那様
鼻クソ
（血小板を突き放し）和子にこれをきれいきれいして欲しいんだよ、和子はどこだ（尻を鼻ク

大旦那様
鼻クソ
ソに向ける）

大旦那様
鼻クソ
（ドリルを椅子に叩きつけつつ）あーあーやる気なくした。せっかくやってたのにもうダメ

大旦那様
鼻クソ
だ。

大旦那様
鼻クソ
（鼻クソに）今日は一先ず、お引き取り下さい。

大旦那様
鼻クソ
でも、

大旦那様
鼻クソ
和子さんは赤血球と一緒になのでしょう？

大旦那様
鼻クソ
え、

大旦那様
鼻クソ
なら大丈夫です。あ、私は和子さんの血小板です。

大旦那様
鼻クソ
血小板？

大旦那様
鼻クソ
彼女、しっかりしてるから。一緒なら大丈夫。

大旦那様
鼻クソ
え、血小板は、一緒じゃなくていいんですか。大丈夫なんですか。

血小板 はい。多少、出血しやすく、血が止まりにくくなっていますが、大丈夫です。
鼻クソ え、

血小板 それにいずれ徳和様が、和子さんを助けて下さいます。だから、お引き取りください。(店員2
に) あなたも。

店員2 え? あ、はい。じゃ、何かありましたらどうぞ。お呼びくださいませ。(上手ドアに去ってい
く)

鼻クソ でも、

血小板 お遊戯の時間です。

鼻クソ は?

血小板 お遊戯の時間ですから。

軽やかな音楽、流れる。克徳、大旦那様、大奥様、ハツとして目を輝かせる。

血小板 はい皆様、お時間です。はい。ぐるっと手を回してー。

お遊戯が始まる。しかし途中でピカッと部屋が明るくなり、お遊戯の音楽カットアウト。直
後、大きな落雷の音。パチンとブレーカーの落ちる音で、照明が落ちる。

血小板(声) やだ何? 停電?

他全員(声) (少しすると、それぞれに驚いたりグズったりしつつ、ウロウロします)

血小板(声) あ、ちよっと皆様、動かないで下さい。(克徳が頭をぶつける等して泣き出し、慌てて) あ、
何か明かり。懐中電灯とか。非常灯とか。ちよっと、ヨドバシさん。ヨドバシさん!

店員2、戻って来ず。雷雨の音、少し大きくなった後、映像へ。

FILM「記念写真」

大山月笙馬一家の記念写真。

- ・生まれた直後。和子に抱きかかえられた徳和。傍らで難しい顔でおしゃぶりしゃぶって座っている克徳。
- ・お宮参り。和子に抱きかかえられた徳和。身長100ほど。傍らで哺乳瓶を持って笑っている克徳。
- ・小学校入学。和子に抱きかかえられた徳和。身長100ほど。和子の髪の毛を引っ張っている克徳。
- ・中学校入学。更に育ち、裸足の足の一部しか写っていない徳和。和子にしがみつき、首を絞めている克徳。
- ・高校入学。更に育ち、裸足の足先しか写っていない徳和。和子にしがみつき、玩具で和子を殴っている克徳。
- ・大学入学。更に育ち、裸足の足先の一部しか写っていない徳和。和子にのしかかり、痛めつけている克徳。

更に和子に対し、あらゆる暴力を奮う克徳。

更に育つ、徳和の体。大分育って、雷雨を受けて、大きなクシャミをする。

SCENE「ガード下」

映像終わり同時に雨の音。舞台中央周辺のみ明転。(椅子と机は端に片されており、下手端の
机の上に電話機とPCが寄り添っている置いてある。)明転すると同時に、更に大きくなった青
い物体を持った宅間と、美和が二人、走り込んで来る。

美和1 そのこのガード下に!

三人、舞台舞台中央辺りまでやって来て服の雨を払うなど。

美和2 あ、なんかこの雨、粘ってない？
美和1 え？ あ、なんかちよっと臭いかも。
美和2 ああ、もう急にこんな。あー、足がずぶ濡れー。
美和1 気持ち悪いー。
美和2 誰もハンカチなんか持ってないよねー。
美和1 ないねー。
宅間 …あれ？
美和2 あー、靴下どうしよー。
宅間 (美和1の肩を突いて) 美和さん。
美和1 ん？
宅間 増えてます。
美和1 (美和2を見て驚く) あっ。ほんとだ。
美和2 (美和1を見て驚く) あっ。なんで？
美和1 ……え？まさか(考える)
美和2 ……え？そんな(考える)
美和1 分裂…？
宅間 分裂…？
美和2 (宅間に) 細胞分裂。
美和1 え？じゃ私…(自分を両手で抱き)
美和2 え？嘘でしょ…(自分を両手で抱き)
美和1 受精した？
美和2 (美和1に) 嘘！
美和1 (美和2に) やった！
宅間 受精？
美和2 うん。受精後、およそ30時間で、
美和1 まずは(並んで見せて) 2細胞期。
美和2 (美和1に) やったよー。
美和1 (美和2に) すごいー。
宅間 え？
美和2 これから32細胞期まで分裂したら、
美和1 桑実胚(そうじつはい)になって胞胚腔(ほうはいこう)を作って、
美和2 私、遂に、胎囊(たいのう)になるの…！
宅間 は？
美和1 もう。だから、おめでただよ。
美和2 お、め、で、た！
宅間 あ。おめでとうございます！
美和1 ありがとうー！
美和2 やだ照れるー。
美和1 ようやくだよー。
美和2 これで私も一人前。
美和1 ううん、一人前への第一歩。でしょ？
美和2 うん、そうだね。
美和1 頑張っここ。これからだよ。
美和2 うん。一緒に、頑張っここ。
美和1 やったー！

美和二人、喜び合う。それを宅間、しばし見て。

宅間　そっか。…じゃ、私も。頑張っているかナチュレ・オーガニックゼリーは新鮮なフルーツをそのままゼリーに。

美和1　…うん？

宅間　私、お父さんに悪いことしちゃったニタびよびよタイマー…。梁田さんにモバゲー…。

美和2　…うん？

宅間　だからちゃんと、謝ろう金谷ホテル。お陰様で、仕事も決まっタスマニアビーフは柔らかか赤身肉。

美和1　…え？

宅間　ほんとに有難うございマスチゲン錠。しばらくはまだ、一緒に暮らす事になっちゃうけど。

美和2　うん…

宅間　でも、梁田さん、凄くいい人だし入り味噌ならハナマルキ。

美和2　へー…

宅間　うん。凄く、いい人だと思う。…リセツシユ。話もなんか、合いそうだし。…ファブリーズ！

美和1　そうなんだ…

宅間　っていうか。私が凄く、邪魔者だけどね。（ちょっと笑って）フマキラー。

美和2　そんなことないよ…

宅間　っていうか。恥ずかしいんだよ。ジップロック。一緒に、ひとつ鼻中隔軟骨の下で、暮らすなんてさ。

美和1　ん？びちゅう？

宅間　ああ。鼻のここところの、この…（自分の右の鼻の穴を指し示す）

美和1　ああ…

サザエさんの髪型と服装と突っ掛けで、買い物カゴを掲げて雨を避けながら、サザエ、三人の横に走りこんでくる。三人はサザエに気づかず。以降、サザエは三人を苦虫を噛み潰したような顔で見る。

宅間　でも。新しい仕事、頑張って。シエロ。私も、一人前になります。ベネゼル、ムースタイプと、クリームタイプ。

美和2　……だね。お互い頑張ろっ。

宅間　はい！ネスカフェアンバサダー♪

美和1　あ、アンバサダー♪

美和2　うん、アンバサダー♪

サザエ　あー（コメカミを揉みながら）ガード下って音が響くのよねー。凄く響くのよねー。（サザエを見て）あ。

宅間　あ。

美和1　あ？（風貌をよく見る）

サザエ　ああもういやだ。ただでさえ低気圧で頭が痛いってのに。神経がおかしくなりそう。

美和2　大丈夫ですか？

サザエ　あもうやめて。あんまり喋らせないで。過呼吸になるから。

美和2　あ、はい。

サザエ　もう。ここなら誰も居ないと思ったのに。（舌打ちして買い物カゴからガマグチを出す）

宅間　…すみません。パピコ。

サザエ　え？（ガマグチの中を見て）ああほらまた。薬がもうない。もういや。

美和1　痛み止めならありますけど…（ポケットを探る）

サザエ　あ。主治医から貰った薬ですから。それじゃないと私だめですから。ああもう静かにして（過呼吸になる）

美和1　…すみません。（薬をポケットにしまう）

サザエ　でもまあ、もらっとくわ。お礼はちゃんと、しますから。
美和1　いえ別にそれは、(ポケットを探る)

サザエ　いいえ。しますから。お名前は？

美和1　あ、大山月笙馬美和です。

サザエ　は？

宅間　吸華です。ぶつちよ。

サザエ　え？

美和2　美和です。

美和1　美和です。

サザエ　サザエでございます。

美和1　あ。

サザエ　(ハツとして急な剣幕で) サザエはサザエでもフグタじゃありません、渡辺サザエです。

美和1　ああ…

美和二人と宅間、思わずサザエの風貌を観察する。

サザエ　ああ…、やめてもう。誰も彼も。…色眼鏡で私を見ないで。お願い。

宅間　(サザエを観察する)

サザエ　どうしてなの？皆んなそつ。だから嫌なの。お魚くわえたドラ猫なんて追わなければ良かった。

美和1　(サザエを観察する)

サザエ　この後どうしましょう、こんなびしょ濡れで。もう。きっと皆んなが笑ってるわ。大きな空を眺めたら、白い雲が飛んでいたのよ。ルルルル、ルルルル。ああもう。今日はいいい天気だったのに。

美和2　…この後、何かあるんですか。

サザエ　(食い気味に) ハイキングです。ああもう…!! (過呼吸)

美和2　(サザエのガマガチを見て) お財布は、忘れなかったんですね。

サザエ　(美和2を凄い形相で睨み) ……は？

美和2　いえ…ごめんなさい…

少しの間。

宅間　(美和らに) じゃ。私、電話します、父に。ケロツグ。

美和2　え？

今日帰る場所だつてないし。オールブラン。気が変わらない内に。フルーツグラノーラ。(ポケットからスマホを出して、美和2に微笑んで頷く) 玄米フレーク。(そして電話をかける)

すると、下手の電話が鳴る。

美和1　ん？(下手の電話を見る)

宅間、下手の電話を見て、電話を切る。電話の音、途切れる。宅間、もう一度、電話をかける。再び下手の電話が鳴る。宅間、電話を切る。電話の音、途切れる。

美和1　え？

宅間　(下手の電話に) 父さんオールレーズン…？

美和1　え？

下手の電話が鳴る。宅間、下手に行き、その電話機を手にとって、その受話器を取る。

父(声) なんだ吸華。お前、こんな所で。探してたんだぞ。良かった見つかって。何をしていたんだ。
宅間 (電話機に向かって) 父さんハーベストこそ、ここで何してんの? (振り返って美和らに)

美和1 あ、…父です。(受話器をペコリとお辞儀させる)
父(声) え?それが?お父さんなの?

いや父さんが悪かった。お前の気持ちも考えずに。梁田さんもな、お前のこと心配してな。一緒にずっと探して、

宅間 でもあれ(下手の真っ赤なPCを見て) ルマンド梁田さんじゃないよね。誰?

美和2 (下手のPCを見て) え?

宅間 (下手のPCを見て) ホワイトロリータ梁田さんは、どうしたの…。

美和2 (下手のPCを見て) え?これが、何なの?

じゃ、私はそろそろ、帰りますから。(サザエさんのエンディングの後ろ歩きで、上手奥に向かうが、三人が気になって進まない)

父(声) ……いや。あれは、相談してたんだ。お前のことを。

宅間、電話を切る。電話が鳴る。宅間、電話を取る。

女4(声) もしもし。あ。また新種のハゼをお見つけになったみたいですね?また論文を発表されるのですか。うふふふ。まだ探されてたのね、シツコイ。そういう所が、ええ、可愛い。

サザエ、エンディングの後ろ歩きで戻ってくる。

女4(声) え?いやだ。宮内庁から怒られます。え?アキヒトちゃん、そんなこと…!

宅間、思わず電話を切る。電話が鳴る。宅間、電話を取る。

男4(声) なんですか。恥ずかしからなくていいじゃないですか。さあ言って下さいよ。ほら、「私のハゼが」、そう。ほら。ああ、ミッチー。もっと大胆に。もっと激しく。…あっ(息が荒くなり) あっ、私のハゼが、私のハゼが…!

宅間、思わず電話を切る。電話が鳴る。宅間、電話を取る。

父(声) おい、父さんを勝手に切るな!混戦するだろ。

美和二人、サザエ、父の声がして、チツと思う。

父(声) あの方は俺の相談に乗ってくれただけで、やましい事はなにもない。それに原因はな、全部、お前なんだよ!
宅間 ?!

上手奥からカツオ、ポケットに手を入れてやって来る。その後ろにワカメが着いて来る。美和二人、それを見る。

父(声) 梁田くんはあれからな、お前が見つからなくて。それで。元気がなくなって。塞ぎがちになって、だから…

カツオ 姉さん、こづかい。

サザエ カツオ、あんたまた無駄遣いを。(カツオの耳を引っ張る)
ワカメ ハッ!(バカにして手を叩いて大爆笑する)

宅間 ……。
カツオ (美和らに) 見てんじやねえよ…！ (サザエを振り払い地面に唾を吐いて上手奥に去っていく)
サザエ (サザエさんらしい怒ったポーズ) まったくあの子は。
ワカメ (サザエの頭の上に、漫画の怒りマークを掲げる)
宅間 ふーん…。アルフォート梁田さんの元気がなくなったから、何？ 塞ぎがちになったから、何？ だから、別の人と会うようになったの？ レノア・フレッシュグリーン。楽しい気分になれる人と。ソフラン・アロマリッチ。

父(声) 吸華。
宅間 そういう所なんだよね。アタック抗菌EX。昔っから、そうなんだよ。アリエール。

父(声) 吸華。
ワカメ (マークを幕内に放り投げる)

宅間 そりゃ今回は私が、手間なしプライベート。でも。…この先もきつとやるよね。すき家の牛丼。変わらないんだよ。キムチ牛丼。やっぱりずっと変わらない。ネギ玉牛丼。…。外で会ってる内はいいよ。わさび山かけ牛丼。でも、…サラダ、でも、…アサリ汁、でも一緒に住むようになったらきつと。高菜明太マヨ牛丼。それに結婚したらまた。とろろり3種のチーズ丼。

父(声) 吸華、もうよせ、
宅間 シーザーレタス温玉セット母さんも、それが原因で…！

父(声) 吸華！
宅間 (受話器を引っ張る)

父(声) あ。やめる吸華、なにを…
宅間 (受話器を引き千切る)

美和2 え？
宅間 (電話の壊れる音)

父(声) (息の絶える声)
宅間 (電話を地面に放り投げる) ……とん汁セット。

間。

宅間 美和さん。私、これからどうし
美和1 (遮って宅間の手を取って) ……私、ネギ玉にしようかな。

ワカメ 私はキムチ。

サザエ 私は高菜明太。

美和2 私はハゼが食べたくなくなっちゃった。

宅間 え？

サザエ わさび山かけもいいわね。

ワカメ 3種のチーズも。

美和1 温玉つきで。

美和2 ハゼの天ぶらか唐揚げか、あ、甘露煮もいいよね。

宅間 あの…

サザエ ああっ！ (高御堂になって) さ。すき家、行きますよ。

ワカメ ああっ！ (高御堂になって) ええ、早く行きましょ。

美和1 ああっ！ (高御堂になって) やだ。凄く楽しみ。

美和2 ああっ！ (高御堂になって) ハゼなんて久しぶりよ、アメイジング。

宅間 え？

美和1 頑張ってるね。大丈夫。あなたならきつと幸せになれるから。

ワカメ 特別なあなたに乾杯。

サザエ レッツポジティブシンキング。

宅間 誰？

美和1 さ、行きましょう。
美和1・サザエ・ワカメ デデッデーデデッデーデデッデーデデッデーデデッデー(上手に去る)
美和2 ホン。(下手に去る)
宅間 え?…あれ?(美和らに) いいの? 離れちゃって。別れちゃって、いいの?(どっちを追つかを迷ってから、PCを持ち、電話を拾って) ちょっとー(と、上手奥に走って去って行く) ラゾーナ川崎ショッピングプラザ。

SCENE 「駅構内」

宅間退場と同時に電車の通過音がして、照明切り替わる。ゴージャスで素敵な服に着替えた和子、赤血球と共に、デパートの紙袋を持って、とても楽しそうに、下手からやって来る。和子の鼻の下には、太い鼻血が一本、垂れている。

赤血球 ちょっと買い過ぎちゃったかしらね。

和子 だってデパートなんて久々なんだもん。若いとき以来よ。

赤血球 そうなの? じゃ、仕方ないわ。ああ、重い。

和子 うふふ。やっぱりちょっと買い過ぎちゃったかしら。

赤血球 その指輪とネックレスは、ちょっとやり過ぎたかもね。

和子 うふふ。でも徳くんの鼻クソ、銀座には居なかったわ…

赤血球 そうね。残念だったわ…

和子 じゃ、今度は有楽町を探しましょうか。それとも丸の内? いえやっぱり両方探さないと、あ…

(興奮して意識が遠くなる)

赤血球 あ、和子さん、(和子を支え) 大丈夫?

和子 ああごめんなさい。(笑いながら) もう興奮しちゃって。鼻血、止まんない。

赤血球 (笑いながら) もう。ちょっと落ち着いて。(和子の首の後ろを叩く)

店のエプロンを付けたカツオ、下手からやって来て、テーブルを一つ、中央へ。

赤血球 さ。少し休みましょう。(カツオに) あ、ここ、いいかしら。

カツオ はあ。

和子 さ。和子さん。

カツオ (椅子を二つ、持ってきて、テキトーに置く)

和子 有難う。でもこの辺も随分変わったわ。前はもっと広々してた。もっと色々、大きくて。

赤血球 そうなの?

和子 うん。でもこれはこれで素敵ね。駅ナカにこんな小さなお店がいくつもあるなんて、なんだか楽しいもん。(座る)

赤血球 そうね。(座る)

カツオ (水とメニューをテーブルに置いて) ごちゅーもんは?

和子 え? どうしよう。

赤血球 オススメは何かしら。

カツオ あ? ランチ? 夕方まで? やってるんで?

和子 (メニューを見て) あ、このセット? 美味しそう! (メニューの店名「カニカニ合戦」)

赤血球 (メニューを見て) あら。カニが全部、ほぐしてあるのね。

和子 まー親切。食べやすいわ。でもこれっぽっちで足りるかしら。

カツオ (スマホが鳴って、電話を取る) あ? 何? 今バイト中。なんだよ中島。え? 野球? もういいよー

和子 じゃ、私はBセット。

赤血球 じゃ、私はCセット。(メニューを差し出す)

和子 あ、これカニ味噌、ついてるわよね。

カツオ (和子に) え?何それ。(メニューを受け取り赤血球に) はい、BとC。(スマホを耳に当て) ああ、だから今バイト中だつて。
和子 ああほんとに楽しい。
赤血球 でも鼻クソ、どこ行っちゃったのかしらね。
和子 (首の後ろを叩きながら) ええでも鼻クソだし。どっか飛んでたらもう、分かんないわ。そう…。
赤血球 (だらしなく椅子に座っており、またスマホを取って) なんだよ、花沢さん。何の用?
カツオ でも、この駅もさっきの駅も。この辺のどの街も。なんだか変な匂いがするのね。
赤血球 え?
和子 街全体が、なんだかちよつと臭いわ。
赤血球 ああ、徳くんね。
和子 え?
和子 (笑つて) だつてお風呂なんか、入れてあげられなかったもん。とてもじゃないけど。
カツオ (スマホに) え、うっそ。カオリちゃんか?
和子 (肘の辺りを見せて) ほらここ、蹴られて骨が曲がったとこ。ちよつとクルツとして臭いの。
赤血球 (嗅いで吐くほど) 臭っ…!
和子 お話も、した事ないわ。すぐに声が届かないくらい、遠く遠く、なつちやっしたしね。(と、上を見上げて) それで街全体が、なんだか臭くなつちやっした。
カツオ (スマホに) え?花沢さん家には行かねえよ?ああ。
和子 (水を飲んで) でも今日は大分、マシな方よ。どうしたのかしら。ほら。時々、いい匂いもするでしょ?

服を着替えた庭先、スーツケースを引いて、下手からやって来る。

庭先 (カツオに) すいませーん、いいですかー。
カツオ (庭先に向かって) あ、客。
庭先 え?
カツオ (庭先に向かって) ああ、客だよ。(スマホに) だからバイト中だつて今。ああ。じゃ。(庭先に椅子を持って来てテキトーに放る。電話は切る)
庭先 (カツオに向かって) ヲセットで。
和子 (庭先を見て) あ、あなた…
庭先 (和子を見て) え?
和子 受付センターの。
庭先 あ。
和子 (庭先のもとに走り) そうだ。受付センターにも行って見たのよ。でも言葉が全然通じなくて。ああ。
庭先 (庭先を揺さぶり) ねえ、受付してよ。回収して。早く。お願い。
和子 ちよつとーやめて下さい。私、これからブエノスアイレスに。
庭先 え?何?
和子 ブエノスアイレスに行くんです。
庭先 ブエノス?
カツオ (庭先にテーブルを持ってくる)
庭先 ええ。(ポケットからパンを取り出して) 羽田から、ヒースローとマドリード経由で。(パンをテーブルに優しく置く)
赤血球 でもその前に、受付だけでもしてもらえないかしら。
庭先 いや(笑つて)無理ですつて。ピラミッドだつて、まだ持って帰れてないのに。
赤血球 え、あれ、あなたのなの? この先の交通機関、完全に麻痺してたけど。
庭先 それに回収の予約は、センターに繋がった端末がないと出来ないんで。すいませーん。

カツオ (スマホ鳴り、庭先に水を持ってきてからスマホに出る) あっ父さん、なんだよ。え？宿題？
赤血球 じゃ回収センターはどこにあるの？回収してる所。もうそこに直接、持って行きますから。
庭先 ああ。アガルタです。

赤血球 え？

庭先 アガルタ。(水を飲む)

和子 それはどこの何丁目何番地？駅はどこ？」刃？メトロ？

庭先 ああ。インナーアースに二万五千年前から存在すると言われてる、幻の地下都市なんで。
和子 は？

庭先 だから、地球の中心ですね。太陽に準ずる熱と光に包まれた、とてつもない圧力とエネルギーを持つ地で。かつては東西の多くの科学者や権力者、探検家達がアガルタを捜し求めましたけど、でも結局、見つかってはいないんで。申し訳ございませんん。

赤血球 え？そこから、回収に？

庭先 はい。その過酷な環境と共存する高度な科学文明と精神社会を持った粗大ゴミ回収作業員たちが、朝8時から、担当地域を順番に、回ってますね。千代田区は、日・月・水・金の週四になります。

波平(声) 『ばっかもーん！』(音響。電話口音量。)

三人 (カツオを見る)

カツオ (スマホから耳を離し) 分かったよ。もうすぐバイト終わっから。したらやるよ、宿題。

赤血球 (向き直り) …和子さん。荷物もあるし、連日のホテル住まいももうあれだから、やっぱり一旦、家に戻りましょう。

和子 いやよ。だってあの人、あんよが出来るようになったのよ？

赤血球 でも、一旦帰って、それからまた、

和子 駄目よ。だってあんよが上手に、なったのよ。殺されちゃうわ。

カツオ (電話は切っており、上手ドアから野球帽と木製バットを取り出して、野球帽を被る)

赤血球 あっ、そうだ。じゃ。ご実家は？そう遠くないでしょ？

和子 えっ…

カツオ (バットを構え、振り回し始める)

赤血球 それに、お母様、ご病気にいられたって。

和子 …。

赤血球 そうだ。丁度いいじゃない。心配でしょ？ お見舞いに行きましょう。カニ食べたらずぐにでも。(カツオに) 店員さん。お食事まだかしら。あら？店員さん？

カツオ (エプロンを外し、椅子と机を片し始める)

和子 いやよ！絶対！

赤血球 …え？

中年男性の客1と2、下手に出て来て、共に店員を待つ。

和子 ウチに帰って、あの人に殺される方がマシ。実家は絶対に嫌。

赤血球 和子さん？

和子 会いたくないの！もう二度と。(唐突に庭先のパンを奪って走り出し、窓を開けて、外にパンを放り投げる)

庭先 あっ、パン…！(窓に駆け寄る)

赤血球 ちよっと和子さん…！

和子 大っ嫌いなあ！母が！あの顔、あの声、もう見たくないし、聞きたくない。

庭先 パン…！

客1 なんだ、今日は混んでんな。

客2 おい、店員！

赤血球 どうしてそんなに。

和子 とにかく嫌なの、嫌いなもの。
庭先 パン……！

赤血球 でも、ご病気だったら一回くらいは、

和子 ああ、病気なんて迷惑。すっごい迷惑。

客1 ああっ！（高御堂になって）すいませーん、二人です。

客2 ああっ！（高御堂になって）二名様、ご来店です。

和子 ああ…（意識を失う）

赤血球 和子さん？

和子 （這いつくばって下手から逃げながら）もう会いたくないんだってば。会いたくないの。

赤血球 どうしたの、和子さん。

客2 お願ひします、店員さん。

和子 いやあ（客から逃げる）

カツオ （高御堂になり）ごめんさーい。私、もう時間、終わりなんですー（舌を出す）

和子 （悲鳴）

カツオ じゃ。私は中島と、野球しに行くわね。プレイボールと、おどけて見せてから、上手ドアへ

赤血球 え？店員さん、ちょっと待って。え？

客1・2 （アラアラと和子を見て笑っている）

庭先 （赤血球に）ああ。新型のウイルス感染症ですね。発症すると、高御堂さんに、なるんです。

赤血球 高御堂さん？

庭先 はい。このウイルスは親孝行による孝行接触で広まりますが、その広まり方が特殊で。それとは

全く関係のない人達が感染して、それとはまた全っ然関係のない人達が、やがて発症するんです

赤血球 え？（ちょっと考えて）それじゃあ、防ぎようがない…。

庭先 はい。私もあなたも、実は感染してるかもしれないんです。でもそれは一生、分かりません。

チャイムが鳴って、駅アナウンスが流れる。

アナウンス 「（高御堂で）お待たせしちやっごめんなさい。一部の線路を塞いでいた障害物が、只今、撤去されましたー。じゃーん。の、で。運休していたトコゼーんぶ、運転再開しまーす。

イエーイ

和子 （耳を塞いで）もうやめて、

赤血球 え？お母様が、ご病気に、って。お母様は、ご病気、そのものに？

和子 もういや。だから私、家に籠ってたのに。なのに世の中の人達はみんな構わず出歩いて、あちこちで構わず親孝行して。

大勢の高御堂たちが、店の外を歩いていく声、近づいてくる。

赤血球 和子さん！

和子 あたし、怖い！

赤血球 和子さん！

和子 だって私にはもう、あなただけ。

赤血球 ええ、バイ菌やカビ、ウイルスなどから身を守るために働くハッ血球も。ついでにポッ血球も

ニヤッ血球もチヨッ血球も。もうとうに一個も無いものね。

和子 今はあなただけ、

赤血球 大丈夫。私が居れば、大丈夫だから。

和子 赤血球！（赤血球にしがみつく）

赤血球 だからほら笑って。…とっても可愛い、和子ちゃん。

和子 ん…？

赤血球 ああっ！（高御堂になって）大丈夫ったら大丈夫。明るく楽しくいきまっしょ。

和子 (悲鳴をあげて赤血球から逃げる)
客1 (赤血球に) ねえ。店員さん、どこにも居ないわね。
赤血球 ええ、困っちゃう。
客2 じゃ、カニ。食べちゃおつか。勝手に全部、食べちゃおつか。
客1 つなーんて。どうしたって絶対に、悪人にはなれない私なのであります。(ポーズ)
赤血球 ちよは。(ポーズ)
和子 (悲鳴)
客1 じゃ、ほか行こ。
客2 ええ、カニ食べ行こ。
赤血球 ええ、行きましょ。ほら和子ちゃんも一緒に。さんはい。
客1・2 (うる覚えで思い出しながら歌う) カニー食べー、
赤血球 (うる覚えで思い出しながら歌う) ようねー。
客2 (うる覚えで思い出しながら歌う) さじー、
客1 (うる覚えで思い出しながら歌う) 加減？
赤血球 (うる覚えで思い出しながら歌う) だよねー。
客2 (うる覚えで思い出しながら振付有りて歌う) たまり、
客1 (うる覚えで思い出しながら振付有りて歌う) 醤油…？(去る)
客2 (うる覚えで思い出しながら振付有りて歌う) 手に、(去る)
赤血球 (うる覚えで思い出しながら振付有りて歌う) 塗って…？(去る)

少しの間。

和子 (紙袋からリボンを一本取り出して、庭先の首を絞める)
庭先 なんですか。
和子 (一旦手を緩め) だってあなたも感染してるんでしょ？(再び絞める)

SCENE 「駅構内 2」

お洒落をして、花一輪を持った屋代、下手からやって来る。

屋代 すいませーん。丸ごとカニカニ合戦バーガー、ドリンクセット。店内で。(店内見て) あれ？
庭先 (和子を退かして) あ、屋代？
屋代 ああ、庭先さん。(スーツケースを見て) あれ？どっか行くの？
庭先 あー。(少し考えて) 別に。(と、スーツケースを窓から投げ捨てる) 屋代は？(屋代の服装を見て) デート？
屋代 ああ、まあね。
和子 (今度は背後から屋代の首を絞める)
庭先 誰と？
屋代 え、誰だっけ。(考えて) 素股？(考えて) 玉舐め？(考えて) あ、バキュームフェラ？
庭先 ああ、宅間さん？
屋代 え、誰それ。セックスのこと？
庭先 あんた。宅間さんのこと、好きなの？
屋代 (真面目に) え。何それ。なんか関係あるの？
庭先 だってデート、するんでしょ？
屋代 ああ。だってなんか、まずはしなきゃいけないでしょ？(和子を退かす)
庭先 え？
屋代 面倒臭いけど、しょうがないよね。(花を見て) アングレカムの花言葉は、いつまでもあなたと一緒に。

庭先 あ、やっぱり好きなの？
屋代 え？（真面目に）…だから何なのそれ。怖いんだけど。
庭先 え？
屋代 いや、教えてよ。…何なのそれ。ねえ。
庭先 あー。

紳士淑女、下手から、何かを探しながらやって来る。紳士はYの字の体勢、淑女はXの体勢。その体勢を、崩さない。

紳士 あ。失礼。ここいらで受精卵、見かけませんでしたか？

淑女 いえ。先程までこのガード下で一緒だったんですけど。でも、逸れてしまっただけ？

紳士 あ。申し遅れました。わたくし、Y染色体です。（と、体をよじって握手をする）
淑女 X染色体です。（と、足をよじってお辞儀をする）

庭先 はあ。
紳士 どこに行ってしまったのでしょう。

淑女 このままではわたくしたち…
和子 あ、もしかして、（淑女の全身をよく見て）…美和ちゃんのこと？

庭先 え？
和子 （淑女をよくよく見て）ああ、やっぱり、美和ちゃんのこと…！

淑女 あ…。（和子をよく見て）和子、さん？
和子 ええ。

淑女 まあ…！お久しぶりですこと。またこうしてお会い出来るとは…！
和子 ええ、信じられない。（淑女の体をよく見て）ああ、変わってないわ。

紳士 いや、私達を構成するのは生物誕生以来受け継がれてきた遺伝子ですから。そうそう大きくは変わりません。

和子 あ、もしかしてあなたはお相手の方…？
紳士 はい。

和子 まあ…！
庭先 （屋代に）あ、ドリンクバー、何がいい？

屋代 （庭先に）あ、ファンタ。
和子 え？ちょっと待って。受精卵って。じゃあ美和ちゃんは、

紳士 ええ。
淑女 おめでたです。

和子 （感激して口を手で覆い）美和ちゃん…！
淑女 でも、分裂を始めた卵細胞が、分離してしまっただけ？

和子 ええ、千切れてしまったんです。バラバラに。
淑女 それでわたくし、このように、表に投げ出されてしまっただけ？

和子 そんな…
紳士 「また会う日まで」の前奏、流れる。

和子 あ、美和ちゃん？（慌ててハンドバックからスマホを出して電話に出る。前奏消える）もしもし？あんたどこに、

血小板（声） あ。和子さん。すみません。私です。大変です。旦那様が、旦那様と、大奥様も…、

和子 え？血小板？どうしたの？何があったの？
血小板（声） はい、遂に皆さん、感染しました…！先程の停電が復旧したら、皆さん、高御堂逸美様に…

紳士、Yではない新たな姿勢で、ピンと立つ。和子と屋代と庭先と波平も、ピンと立つ。そして音のキッカケで、五人、突然、踊りだす。1分程のダンス。ダンスの最後、紳士淑女と波平と和子、踊りながら下手に去って行く。屋代と庭先が、残される。

屋代 …今の波平だよね？

庭先 …え？ あ。じゃ。私、他にカニ、食べに行くから。

屋代 あ。(紙袋に気づく)

庭先 じゃあね。

屋代 忘れ物。(紙袋2つを取って、庭先に見せる) どうしよう。どっちがいい？

庭先 は？

屋代 どっちにする？

庭先 要らないよ。

屋代 遠慮すんなよ。選んでいいよ。

庭先 要らないってば。(中を見て) 結構高価そうじゃん。捕まるよ。

屋代 前の職場では色々と迷惑かけたじゃん。だからお願い。受け取ってよ(袋を1つ、押し付ける)

庭先 やめてってば。

屋代 分かった。なんなら両方、受け取って。(袋を両方、押し付ける)

庭先 は？

屋代 俺のほんの気持ちだって。頼むよ。

庭先 なんだ。

屋代 俺の気が済まないんだよ。さ。ほら。(袋の中から小さめの箱を取って庭先のポケットに押し込む)

庭先 ちよっとーやめてよ。何なのもう。(下手に去って行く)

屋代 え。待ってよ、頼むよ。受け取ってよ。(袋を持って、下手に追って去っていく)

二人が去ると同時に、映像へ。

FILM「ニュース」

素敵な音楽と共に。素敵な題字タイトルから始まるニュース。

キャスター

(高御堂) ニュースです。爆発的な猛威を奮っている高御堂ウイルスですが、各国の対策も何ら成果をあげないままです。世界的な蔓延に、歯止めがかからないんですって。オウマイガツ

世界中に蔓延する高御堂さん。

専門家1

(軽度の高御堂) ひとくちに発症と言いましても、非常に軽度な場合もあります。ええ。(偽陰性の高御堂) 一見全く発症してなくとも、偽陰性の場合もありますので。ふん。

専門家2

なるほど。予断を許さない状況は今後も続きそうですが。でもまあ。特にそれによる問題は、

専門家1

ございません。

専門家2

むしろとっても、エクセレントビューティフルワールド。世界は私を待っている。レッツ、ポジティブ。レッツ・エンジョイ、ユアライフ。(素敵なポーズ) また、千代田区に立ちほだけ

専門家1

る徳和ですが、これまで微動だにできなかった彼が、何故か少し、動き始めたようです。どうやらようやく産湯に浸かり、体がほぐれたようです。

専門家2

はい。そのため、風邪をひかぬようその全身に、かつてないほどの大量のウィックス・ヴェポラップ(良い発音)が、塗り込まれております。

スタッフ1

(高御堂) はい。夕方のニュース、終わりっ。

スタッフ2 (高御堂) はい、丁度、ペカンパイが焼き上がったわ。
キャストー やだ、美味しそう。
専門家1 切り分けて切り分けて。
専門家2 じゃ、私が。
スタッフ1 えー？大丈夫ー？均等にねー。

素敵な音楽と共に、はしゃぐ。

SCENE「夕方」

映像の素敵な音楽のまま明転すると、四人が地面に倒れている。庭先と、和子の袋を持った屋代が、上手奥から、やけにいい声でやって来る。

屋代 (やけに美声で) いい加減、もらってよー。
庭先 (やけに美声で) いらないうってばー。
屋代 (やけに美声で) もらってってー。
庭先 (やけに美声で) いらませんー。
二人 (立ち止まり、一斉に深呼吸をする)
屋代 (辺りと上空を見回して) なんだろう。なんか今、やけにスーッとした匂いが、漂ったね。
庭先 うん。鼻がスーッと、通ったね。
屋代 はい。じゃ。もらって。 (紙袋を差し出す)
庭先 だからいらないうって。
屋代 なんだよ！しつこいな！
庭先 は？

街の音、車のクラクション、聞こえる。柵谷 (中年女性)、窓岡 (若めの女性)、車掌、ゴルゴ風の男、目を覚ます。

柵谷 …んー
屋代 え？ あ。柵谷さん？あ。窓岡さんも。
窓岡 え？ 屋代さん？
屋代 え？ 嘘、なんで？
柵谷 (目を細めて辺りを見回す) ああやだ。こんなの何年ぶりだろうねえ。
窓岡 (目を細めて辺りを見回す) ほんと久々ですねー。眩しー。
屋代 え？ どうしたんですか？だって人柱に。人柱に、されたんですよね。
ゴルゴ3 はい。埋められました。
車掌 ええ。建造物の、最下部に。
屋代 え。あなたは？
ゴルゴ3 あ、ゴルゴ3です。(もみあげとライフルはゴルゴだが、平凡な男性)
屋代 3？
車掌 あ、私は銀河鉄道9の車掌です。(敬礼をする。ごく平凡な中年男性車掌。)
屋代 9？
柵谷 (屋代に) いやあ、また会えるとは思わなかったわ。
窓岡 (庭先に) まさか、まだ生きてるとはびっくりですよね。
車掌 (窓岡に) ええ、ほんとに。
ゴルゴ3 (柵谷に) まったくです。

和気藹々とする、柵谷と窓岡と車掌とゴルゴ3。

屋代 ねえ。人柱、ちゃんと埋まっていなかったみたいだよ。あとあれ（ゴルゴ3と車掌）、何？ 何埋めてんの？

庭先 (上空を見上げて) あ、私のピラミッドが。
屋代 え？ (上空を見上げて) あ。…：…なんか。すごいい振り回してんね。
庭先 (上空を見上げて) 遊んでんね。

松任谷由実の「春よ、来い」、或いは「春」を題材にした曲が、上空から流れ出す。

屋代 ん？なにあれ。

庭先 ああ。私が葬式で流したい曲メドレー。

屋代 へー…

庭先 あ。あっちにもなんか飛んでった。

屋代 ああ？

庭先 あ。主任。

庭先 あーもー。…：…死ぬ時どうしよう。

下手から宅間、かなり大きくなった青い物体と、壊れた電話を持って、やって来る。人柱たちは輪になって、和氣藹々としたまま。(青い物体は邪魔なだけで、誰も何も、一切、触れない)

宅間 (開いている窓の中に) すいませーん。私のくちびるに、春が来ました。二色のリップが織りなす光と影は、誰にも負けない私だけの春一番。新商品「ツインリップ」、今ならスキンケアマスキ、もらえます。(途中から、完全にCMナレーション風になる)
屋代 …：…何言ってるの？

音楽、カットアウト。

宅間 (屋代に) あ、鳥貴族。
屋代 え？

宅間 (庭先に) 魚民も。

庭先 は？

宅間 (窓を指し) ここ、ヨドバシですよな。ビックカメラ。

庭先 え？

ビックカメラのテーマ(インスタ)、上空から流れ出す。屋代、上空と、庭先を見る。

宅間 だからヤマダ電機、ヨドバシに、ケースデンキ梁田さん、居るんじゃないかと思って。コジマ。
庭先 は？
宅間 だから私、探してるんです。ノジマ。
庭先 つか。それ誰？(宅間の後ろを指す)
宅間 (振り返って思わず悲鳴)

音楽、カットアウト。薄い水色ずくめの男(精子)、宅間の背後にこっそりと佇んでいた。

精子 あっ。いえ。別に俺は…。

屋代 あっ？ 何だよお前！こんなところで何してんだよ！(精子に駆け寄りヘッドロックを掛ける)

庭先 え？知り合い。

屋代 ああ。俺の精子。

庭先
精子？

どこ行ってたんだよもー！心配したじゃん。

いや…。(とりあえず笑う)

屋代
精子
あ。そうだ。これさ。(花を袋から取り出して宅間に差し出す)やるよ。だからいいでしょ？
セックス。

(ビクツとする)

屋代
精子
じゃなかった。まずは、なんだっけ。ほら。デー、デー、デーブ大久保、じゃなくてデーブスベクター、

(花をはたき落として)やめろよ！

は？

屋代
精子
(宅間の目を見れないまま宅間に)違うから。俺そんな。ほんとに全然…(素早く屋代の首根っこを掴んで)お前いい加減にしろよ。殺すぞ。マジで殺すぞ。

は？

屋代
精子
(宅間の目を見れないまま宅間に)あ、別に僕は、そんなんじゃない。ただほんの少しだけ同じ時間を過ごして、ほんのささやかな会話を交わす事が出来たらそれだけで、いや！気持ち悪いって！(宅間を掴み)違うから！そういうんじゃないから！(宅間を突き放し)ああもう！(自分の頬を思い切り、何度も叩きながら)俺は、本当に、そういうんじゃない。だから。あああああああ、あああああああ(地面にうずくまる)

(屋代に)何これ？

さあ。

(精子に)人は、

(宅間を見る)

簡単に、壊れる。

(宅間を見る)

エーシー。

え…

もう二度と、

…

明日は来ない。

…

エーシー。

あああああああああ…

上手奥から和子、鼻にティッシュを詰めた状態で、上空を見上げて走ってやって来る。

和子
あああああああああ、(上空に向かって)徳くん！それ食べちゃダメ！そんなもの食べたら、

お腹を壊すわ。

え？

そしたら、大変なことに。

サイレンが鳴り響く。

和子
ほら！あなたの胃腸、大腸、肛門の住人の方々に、避難命令が出てるわ。

サイレンが鳴り終わると、少しの静寂の後、下痢の音が、最初は少量、やがて大量に、鳴り響く。大量の下痢便が、街に降りかかる音。ひとしきり終わると、匂いが漂ってくる。

車掌

…じゃ。私たちはそろそろ帰ります。

窓岡 会えて嬉しかった。
ゴルゴ3 また何かあったら呼んで下さい。
柵谷 今度埋める時はしっかりね。
庭先 あ、はい。
屋代 あ、でも。(下手の方) そっちの駅も道も、今のでグチャグチャですけど。

柵谷、窓岡、ゴルゴ3、立ち止まる。

車掌 あ。大丈夫です。じゃあ皆さん、銀河鉄道9で参りましょう。
屋代 9。
車掌 はい。ちょっとだけ浮きますから。
屋代 ちょっとだけ。
車掌 はい。良かったら皆さまも。

汽笛の音。

車掌 はい、皆さーん。急いでご乗車くださいーい。

そして威勢良く前奏が流れた後、車掌による、うる覚えの歌が大音量で流れる。なんとなく全員、車掌を先頭に一列に並ばされ、前の人の肩に両手を置き、舞台上をぐるぐると回らされる。

声 「さあ行くんだ、その顔を、ふんふふん。新しいい、ふん、ふふん。心が、ふん、ふん、ふふん」
そうしてしばらく舞台上をぐるぐる回った後、列はそのまま、下手に退場していく。しかし宅間は立ち止まり、それを見て和子とゴルゴ3も、立ち止まる。虫の音が聞こえ、照明、夕暮れ時になる。

和子 ……どうしたの？
宅間 ……私、土間土間なの。
和子 あら。
宅間 ……それにもう、笑笑なの。
和子 まあ。
宅間 (地面にしゃがんで) 庄や…。
和子 (納得して) そうなんだ。
ゴルゴ3 (和子を見る)

風で草木の揺れる音がする。

和子 じゃ。とりあえず、ウチに来たらいいわ。
宅間 え？
和子 いやかしら。
宅間 はい、よろこんで。
和子 ごめんなさいね。(宅間の隣に座る) ……私ね、あんたはダイヤモンドだって言われて育ったの。世界中の人達が、あなたを愛している、あなたを求めているって、言われて育ったの。

ゴルゴ3 (宅間と和子の間に座る)
和子 (宅間とゴルゴ3に) ええ。母があんまりそう言うもんだからね、私、怖くなって、会う人会う人、開口一番、片っ端からお断りしたわ。国内外にお断りの手紙も書いたわ。私のブロマイドな

んかもちゃんと添えてね。お気持ちは嬉しい、でもどうぞ、これで我慢して下さいって。ええ。男性だけではなく女性にも。全世界の老若男女に。あらゆる企業と学会と政界にも。毎日毎日、許してねと、そう願って送り続けたわ。そうして普段は出来るだけ、目立たないように暮らしたの。お洒落もせずに。お友達も作らずに…。でもね。環境庁で事務パートをしていた、32才の時ね。ゴミ処理場の見学があったの。お出かけなんてほとんどしなかったから、遠足みたいで楽しみにして行ったわ。そこでね…。ゴミ処理場に大量に捨てられた、お手紙や写真を、見たの。

映像。ゴミ処理場に、和子の手紙とプロマイドと、額入りの特大写真が、うず高く山のよう
に、捨てられている。

和子 私、びっくりして家を飛び出して、海に行ったわ。そしたら各国の言葉でしたためたお手紙と私の写真で、海岸が、海が、埋め尽くされたの。

映像。海岸を、海を、埋め尽くす、和子のプロマイドと額入りの特大写真。

和子 私、びっくりして、山にも行ったわ。

映像。山を埋め尽くす、和子のプロマイドと額入りの特大写真。

和子 私、びっくりして、川にも行ったわ。湖にも。池にも。

映像。川を、湖を、池を埋め尽くす、和子のプロマイドと額入りの特大写真。

和子 …私、世界的な海水汚染と環境汚染と、大量の廃棄物焼却による、地球温暖化の、主要因になってた。

映像。世界各国の、環境汚染の様子。オゾン層の破壊される様子。温暖化による影響と災害の様子。汚染廃棄物量のグラフで、群を抜く和子。

和子 だから私、打ちのめされて、お見合い話を受けたの。

映像。ウエディングドレス姿の和子。

和子 お相手なんて誰でも良かった。そのせいでこんな。

少し間。

和子 宅間 ？
だから。はい、炭疽菌。(と、包みを二つ、宅間とゴルゴ3に渡す)

和子 だってあなた方も感染してるんでしょ？これから全世界の人たちに炭疽菌を送りつけないとね。

遠く上空から、声がする。

声 あー…

和子 ん？

声 まんま……まんま……

和子 え……(立ち上がる)……うそ。なに？ (上空を見上げて) ……徳くん？ 徳くんなの？
声 うんこちんちん…

和子 徳くん…?
声 ちんこちんちん…
和子 徳くんが…!
声 おっぱいばーい…
和子 (上空に向かって) 徳くん!

陽が落ちていく。

和子 徳くん…!

陽が落ちて暗転。暗転中も声が響く。「おしりかいかーい」「おなびぶうぶーう」「もりもり
うんこー」「ぴかぴかちんこー」「ママ、どこ」「ママどこー」「ママー」「ママー」

SCENE「夜」

明転。真ん中に机が一つと、上手側に椅子が二つと、下手側に車椅子がある。シーン「自宅
3」大月笙馬邸。窓は開いたまま。窓の外には、肌色の壁。机の脇に、和子と赤血球の紙
袋。鼻クソと精子が、上手側の椅子に座っている。

鼻クソ え? そうなの?

精子 ああ。最大で10億くらい居るからね。

鼻クソ え? マジで? 窮屈じゃない?

精子 まあ精巣はあれだけど、陰嚢は伸び縮みもするし。

鼻クソ へー。

精子 まあでも賑やかなもんだよ。

鼻クソ いいなあ。

精子 え? そっちはどうなん?

鼻クソ ああ、風邪っぽい時や埃っぽい時はね、結構みんなで溜まったり固まったりもするけど。

精子 へー。

鼻クソ でも基本は一人だよ。乾燥したらほぐれるし。時々ほじられもするしね。

精子 あー。

庭先、下手から、とても小さな石を二つ持ってやって来る。

庭先 仲良いじゃん。

精子 え? あ、まあ。

鼻クソ 楽しいです。色んな話が聞けて。

庭先 そう。(机に石を慎重に重ね始める)

鼻クソ でも、和子さん遅いですね。

庭先 (石を積みながら) あー。

鼻クソ 戻りますよね。

庭先 つか。戻らないと困るから。

屋代、上手ドアから、コンビニの袋を持って、アイスを食べながら入って来る。

屋代 あー寒い。

庭先 あ、居た?

屋代 え?

庭先 和子さん。
屋代 え？
庭先 探しに行ったんじゃないの。
屋代 いや別に。
庭先 ちよっと。探して来てよ。
屋代 やだよ、寒いもん。
庭先 あんたのせいなんだからね。これ（紙袋）ちゃんと返して、帰るんだから。
屋代 え？だってそれ庭先さんのでしょ？
庭先 違うから。やばいから。それやめて。
屋代 だって。
庭先 かなり高価なんだって。（紙袋から宝飾品の箱をいくつか出して見せながら）ほら、これも。これも。いくらすんのお。ダイヤモンドだよ。
屋代 ああ。（机の上の石をいじる）
庭先 （紙袋に箱をしまいながら）だからちゃんと返して、とっとと帰るの。
屋代 ああ。（机の上の石を放り投げて遊んでいる）
庭先 あ、ちよっと何してんの！（石を奪い返して）やめてよ！いちからやり直しなんだから。
屋代 え？（石を覗き込んで）ピラミッド？
庭先 そうだよ。
屋代 そっか。
庭先 だから忙しいの。（石の積み方を再び検証し始める）
屋代 そっか。だったらこれ、置いて帰っちゃえばいいじゃん。
庭先 （検証しながら）こんな高価なもん、置いてけないでしょ。
屋代 いらんだったたら、置いてけよ！
庭先 え。なんで怒ってんの。

和子、上手ドアから勢い良く入ってくる。

和子 徳くん…、徳くん…、（と言いながら、何かを探し回る）
庭先 あ、和子さん。勝手にすみません。玄関、開いたもんで。
和子 （庭先に）拡声器。それかメガホン。持ってない？
庭先 え？
和子 徳くんが、話し始めたのよ！声が聞こえたの！
庭先 え？
和子 徳くんが、ママ、ママ、って。
鼻クソ 和子さん、それは本当ですか。
和子 え？
鼻クソ あ、僕、ずっと待ってたんです…！
和子 あ、そ。（屋代に）そんな事より、拡声器！
庭先 いや、そんな事よりこれを（と、紙袋を差し出す）
和子 （それを叩き落として）いらんわよ！そんなもん！
庭先 あ。

宅間、相当大きくなった青い物体と、壊れた電話機と、ヨドバシの紙袋を持って、上手ドアから入って来る。（青い物体は邪魔なだけで、誰も何も、一切、触れない）

和子さん。

あ。なんだ、来たんだ。えっと、（名前）なんだっけ。

精子 （屋代と宅間の間に入る）

屋代 あ、なんだよお前。
精子 もうやめろって言ったろ、
宅間 あ、精子。私、あの仕事やめたから。(電話機とPCを机か椅子に置く)
屋代 え？
精子 ……え？

庭先 (精子を見る)
精子 何？どうして…？
宅間 だから。これから二人で。沢山話そ。
屋代 (精子を見る)
精子 ……え？
宅間 ね。

精子 え？ああ…(堪らず)吸華ちゃん！(宅間にしがみつく)あっ、ごめん！
宅間 (笑う)
精子 (笑う)
屋代 (二人の様子を見て)？
庭先 へー。あんたがお父さんになる日も、近いんだね。
宅間 え？何？そっなの？

庭先 (宅間の紙袋を見て)で。何これ。
宅間 ああ。梁田さん。どうしても見つからなくて。だからさっき、ヨドバシドットコムで。
庭先 ……新品のPCを出して、PCに向かって(ごめんね、梁田さん。本当にごめんなさい。
庭先 ……)

宅間 (和子に)で。見つかりました？メガホン。
和子 (探すのに飽きて車椅子で遊んでいた)あ。ううん。ないの。話しかけてあげたいのに。話をし
て欲しいのに。
庭先 え？ あれと？(窓の外を指す)別に話せるよ。
和子 え？

屋代 (鞆からポケットからか、ヘッドセットを出して、窓の外の肌色の壁に、その先を突き刺す)
和子 「あー痛い…」
屋代 徳ちゃんっ…!!(窓に駆け寄る)
和子 はい。(ヘッドセットを渡す)
屋代 (ヘッドセットを装着して)徳ちゃん、ママよ！
和子 「ママ…」

和子 ……!! 徳ちゃん？元気？お風邪は？大丈夫？寒くない？
声 「ママ…!!」
声 (鼻クソの背中を撫でて慰める)
和子 これからいっばい、お話ししよう…!!色んなこと、お話ししよう…!!
声 「あああっ!!…そうね。お話ししよう。楽しいわ」
和子 え……

声 「(高御堂になって)……うんこちんちん♪」
音楽、IN。

和子 徳…
声 「さ。お話、早く聞かせてよ。ブリリアントよ、この世界は。だからほら、早く」
和子 (ヘッドセットを引っこ抜いて宅間に)お願い。今すぐ、お願い。
宅間 え？
和子 早くして！
宅間 でもあの、

和子 (ヘッドセットを宅間に装着させ) 受付を！ 早く！
宅間 でも、
庭先 だから地下都市の回収センターに回線を繋げないと、
和子 (宅間のPCを指して) 繋いでー！
庭先 (仕方なくPCに向かう)
屋代 (宅間の電話機を見て) でもこの電話、壊れてるよ。
鼻クソ この家の電話は、
屋代 それはダイヤルホンだから。
精子 貸して。(屋代から電話機を奪つ)
宅間 (精子に) 直すの？直せるの？
精子 ああ。
宅間 精子。
屋代 (手際よく電話を直す精子を見て) お前、凄いな。
精子 直った！
庭先 繋がったよ。
宅間 え…(コードで繋がったPCと電話を見て) 梁田さん…、父さん…。
和子 かけるわよ。
宅間 はい！(青い物体がとても邪魔ながらも、PCと電話の前に、なんとか座る)
和子 (家の電話をダイヤルする)

着信音が鳴り、宅間が受電。受話器を耳に当て、気をつけの姿勢で立つ和子。

宅間 お電話有難うございます。東京都粗大ごみ受付センター、宅間です。ご家庭からの粗大ごみのお申し込みでしょうか。
和子 はい。そうです。
宅間 それでは、粗大ごみをお出しになるご住所をお願いします。
和子 はい。ここです。
宅間 粗大ごみは何でしょうか。
和子 はい。私です。
宅間 それでは、回収の状況を確認しますので、少々お待ち下さい。

やった！と思う和子。青い物体が邪魔ながらも、なんとかPCを扱う宅間。

鼻クソ ああっ！(高御堂になって) 和子ちゃん、ノンノン。
精子 ああっ！(高御堂になって) ジャスト・ア・モーメント。
宅間 えっ
和子 早く早く早く早く、
庭先 ああっ！(高御堂になって) 和子ちゃん、どこにも行かないで。
屋代 ああっ！(高御堂になって) ママと一緒に、ハッピーライフ。
和子 早く！
宅間 はい！お待たせ致しました。ご予約完了です。
和子 ありがとうございます！
宅間 回収は本日、まもなく、ああっ！(高御堂になる) やっては来るけど行かないで。
和子 (急いで電話を切って上手ドアに行こうとする)
鼻クソ (それを捕まえて) 待って。ちょっと落ち着きましょ。
精子 (和子の背中を押して戻して) そうよ。お紅茶でも飲んで。
宅間 (立ち上がり、和子を引き戻して) ね。
和子 (無言で抵抗)

庭先 (和子の真正面から) ほら、ファンタスティックワールド。
屋代 (和子を真正面から) 煌きましよ。私のダイヤモンドちゃん。
和子 (言い終わらない内に、その手を思い切り叩く)

同時に上手ドアから、純白できらきらと光る煌びやかな作業着とヘルメットと軍手と長靴の回収作業員三人、やって来る。

作業員1 回収はこちらですね。

和子 はい！

作業員2 お品物は。

和子 私です！

作業員3 じゃ、運びますよ。

和子 あ。あなた達、(二人の全身を見る)

作業員3 あ。ダイヤモンドです。

和子 え？

作業員2 地下では全て、回収されたものも残らず、ダイヤモンドになるんで。

和子 え？

庭先 (和子を引きとめ) それはもう、間に合ってます。

和子 (言い終わらない内に、その手を思い切り叩く)

作業員1 じゃ、行きますよ。

高御堂らが止めるも、作業員三人で和子を掲げ上げる。和子、意気揚々と前を向く。

音楽、大きくなる。しかし同時にスマホ音が鳴り、音楽、カットアウト。

和子、ポケットからスマホを出してタップ。

音声

「有難うございます。カニ問屋のカニカーニバルから、カニ味噌たっぷり極太本タラバスペシャルセットが、発送されました。明日のお届けです」

和子

あ。

和子、驚愕し、悩む。

屋代 本タラバ。

庭先 本タラバ。

和子 (しかし振り切り、スマホを捨てて、決心する) 行って下さい！

音楽、再開。音量大きく。意気揚々と、掲げられ、運ばれる和子。

止める高御堂たちに構わず、悠々と舞台上を一周。

そして上手ドアの直前まで行くと。

作業員3 あれ？

音楽、再び、カットアウト。作業員3人、掲げたまま和子を見上げる。

作業員1 粗大ごみ有料処理券、貼ってます？

和子 え…？

作業員達、静かに和子を下ろす。

下ろし終わり、少し和子を見つめると、舌打ちし、ドアから去っていく。

ENDING音楽。和子、自分に処理券とやらが貼ってないか、一応自分の全身を見ようとする。高御堂たち、和子に静かに近づいていく。どつやら何も貼っていない和子、立ち尽くす。高御堂たち、更に近づく。そして完全に高御堂に囲まれた和子が、一瞬、高御堂になって、照明カットアウト。

FILM 「ENDING」

千代田区の粗大ごみ処理券。A券とB券。千代田区の街の、上空を舞う。

鼻の穴、毛穴。あらゆる体の部分の、接写画像。そのコラージュ。

白血球、赤血球、血小板。卵子、精子、染色体。あらゆる体の内部の、顕微鏡画像。そのコラージュ。

そして巨大な、ピラミッド、前方後円墳。

最後に千代田区の街の様子。OPENINGと同じく、湯気を立てて、ゆらゆら揺れる。

げんこつ団事務所

<http://genkotu-dan.official.jp>

info@genkotu-dan.official.jp

03-6754-8903

もしも本作品を上演、引用などされる場合には、ご連絡先とご氏名、その内容を明記のうえ、右記連絡先まで、ご連絡下さい。